第18回全国中学校選抜大会

男子は松橋中（熊本）が二連覇
女子は大瀬中（奈良）が初優勝

8月17～20日　山口市

男子

1回戦

松橋（熊本）20〔10－9／10－4〕13 総社西（岡山）

〔戦評〕前半、総社西のダブルマンツーマンディフェンスにほんろうされ、松橋にミスが目立ち、互いにせり合う。

しかし、後半に入ってシュート力に勝る松橋が、森山などのミドルシュートなどで得点を重ね、ふり切った。

得	〔松橋〕		〔総社西〕	得
0	鶴崎	GK	古賀	0
0	山田		安本	0
0	永井	FP	間野	0
0	内山		木山	5
0	森川		小野	2
0	吉田		吉田	3
5	米満		長江	0
0	松本		高本	2
2	秋山		来見田	0
3	渕上		山田	0
9	森山		安田	1
1	池田		黒田	0
0	米村		西浪	0
0	上田		村木	0
0	外村		橋本	0
20	(2)	PT	(2)	13

（審・山根、赤地）

板津（石川）24〔11－4／13－4〕8 赤坂（岐阜）

〔戦評〕板津のフリースローからのミドルシュートでゲームが動き始める。その後もパスカットから速攻やサイドシュートで着実に得点を重ね、差を広げた。一方赤坂は、板津の堅いディフェンスに阻まれ思うように得点できず、7点差で前半を終了。

後半も板津が終始自分たちのペースで試合を運び、のびのびとしたプレーで赤坂を圧倒した。

得	〔板津〕		〔赤坂〕	得
0	江指	GK	清水	0
0	石田		池田	0
2	佐伯	FP	西村	2
1	沢田		宗宮	2
6	堂道		田部	2
3	杉永		細野	0
3	中村		武藤	2
3	灰田		田中	0
1	久司		佐橋	0
1	山岸		清水	0
1	石黒		日置	0
2	中野		安田	0
1	山本		成瀬	0
0	林		松岡	0
0	井上		小寺	0
24	(1)	PT	(1)	8

（審・山根、赤地）

日新（山口）34〔18－3／16－10〕13 厨川（岩手）

〔戦評〕開始早々、キャプテンの松山の連続4得点など速攻を主体に早い球回しの日新が、堅い守りとキーパーの好守で、前半で早くも15点の大量リードを奪った。

前半3点に押さえられていた厨川は、後半に入って動きが良くなり、ロングシュートやポストプレーで10得点をあげたが、日新はポストプレーやカットインなど多彩なプレーで順調に加点し厨川を圧倒した。

得	〔日新〕		〔厨川〕	得
0	三木	GK	渡辺	0
0	荒木		足澤	0
3	河村	FP	浦上正	2
15	松山		浦上博	3
8	森野		柴田	2
1	井上		武元	1
4	牧		金川	0
3	津田		小笠原	5
0	中村		阿部	0
0	広山		藤原	0
0	松永		國本	0
0	大庭		山本	0
0	川添		坂田	0
0	西嶋		平澤	0
0	島口		金田	0
34	(1)	PT	(0)	13

（審・島崎、井上）

中野（埼玉）18〔10－6／8－11〕17 上町（大阪）

〔戦評〕前半のなかばまで両チームともディフェンス、並びにGKの好守で一進一退をくり返す。12分過ぎ、中野・佐藤の左腕からの高打点のロングシュートや相手ディフェンスのスキをつくスタンディングシュート、ポストプレーで中野が上町に徐々に差をつけ、4点差で前半を折り返した。

後半に入り停電のため15分と3分間の2回の中断があり、ゲームの流れが上町に傾き始めた。後半8分には上町・岩崎のパスカットからの一人速攻で11－11の同点に追いついた。その後上町・呼子の退場があり2点差をつけられたが、上町・岩崎の5連続得点などで1点差として終盤を迎えた。終了3秒前、上町・植のロングシュートで同点かと思われたが、キーパーに阻止されてゲームが終了した。

得	〔中野〕		〔上町〕	得
0	諸橋	GK	阿部	0
0	大澤		浦野	0
1	佐々木	FP	植	6
0	紅林		美濃部	0
9	佐藤		呼子	1
0	柴田		桐島	0
3	須藤		岩崎	8
0	真弓		吉田	2
0	松池		谷口	0
5	北川		奥野	0
0	北澤		浦田	0
0	生野		藤原	0
0	伊藤		乾	0
0	金井		江草	0
0	遠藤			
18	(0)	PT	(1)	17

（審・古冨、岡村）

国分寺第五（東京）22〔9－11／13－5〕16 綾南（香川）

〔戦評〕前半は両チームともロングシュートの打ち合いとなり、迫力のある試合展開となった。スピード、シュート力、展開力ともに互角の対戦である。国分寺第五のディフェンスのやや甘さが感じられたが、佐々木を中心とした高い打点からのシュートは力があった。綾南は小川のカットインプレーが成功した。

後半に入り、国分寺第五のフォーメーションプレーがよく決まり、スピード、パワーともに綾南を圧倒して逆転勝ちを収めた。

得	〔国分寺五〕		〔綾南〕	得
0	井上	GK	多田	0
0	天野		馬場	0
1	小野	FP	小川	9
4	水落		中村	0
0	斉藤		山田	0
0	荒谷		橋川	0
11	佐々木		十河	0
6	永田		岡本	0
0	野間		小川	3
0	柴田		田中	2
0	内藤		伊賀	2
0	坂上		小西	2
0	高橋		佐藤	0
0	片寄		深谷	0
			増田	0
22	(2)	PT	(0)	16

（審・長井、加藤）

楠（愛知）21〔11－7／10－11〕18 浦添（沖縄）

〔戦評〕前半は両チームとも積極的に攻め合い、点の取り合いとなった。浦添は外間を中心にミドルシュートやカットインプレーで得点したのに対し、楠は宮川のミドルシュートとフォーメーションから左サイドに展開し、恩田のサイドシュートで得点を重ねた。15分を過ぎた頃より浦添のディフェンスが甘くなり始め、そのスキを突いて楠が堅実なプレーでリードして折り返した。

後半に入っても激しい点の取り

合いとなり、一進一退の攻防が続いた。11分、12分と浦添が相手パスをカットして得点、キーパーの好守から速攻し同点に追いつく白熱したゲームとなった。最後は展開力にやや勝る楠が逃げ切った。

得	〔楠〕		〔浦添〕	得
0	中島	GK	西原聖	0
0	鈴木	GK	親川	0
4	西村	FP	沖田	0
0	大野	FP	津嘉山	0
9	宮川	FP	前田	0
1	福田	FP	田場	5
3	冨田	FP	武富	1
3	恩田	FP	外間	8
0	吉岡	FP	川満	0
0	牧野	FP	久高	0
0	芦田	FP	福治	1
0	蓑輪	FP	棚原	0
0	松井	FP	松田	3
0	後藤	FP	西原倫	0
1	渡	FP	瑞慶山	0
21	(2)	PT	(2)	18

（審・長井 加藤）

松陽 13 〔10―6, 3―6〕 12 南部
（兵庫）　（富山）

〔戦評〕前半、松陽は速い展開から神吉のカットイン、中野のロングシュートで得点を重ねる。一方南部も宮永のミドルシュートで得点するが、ポイントでのノーマークシュートを松陽GK塩井が防いで前半を4点差で折り返す。後半、南部は速攻を中心として同点に追いつき、1点を争う好ゲームとなったが、相手のミスもあって松陽が1点差で逃げ切る。

得	〔松陽〕		〔南部〕	得
0	塩井	GK	山木	0
0	米田	GK	三浦	0
2	神吉	FP	海下	1
6	中野	FP	堀江	2
0	原	FP	宇波	0
2	中根	FP	廣谷	2
1	添田	FP	穴田	1
0	黒田	FP	稲積	0
2	網干	FP	青野	2
0	岡	FP	越田	0
0	紙谷	FP	宮下	0
0	佳	FP	尾崎	0
0	寺岡	FP	三木	0
0	福井	FP	宮永	4
0	神谷	FP	荒勢	0
13	(3)	PT	(0)	12

（審・古冨 岡村）

深浦 26 〔12―2, 14―4〕 6 釧路北
（山口）　（北海道）

〔戦評〕前半、深浦は保科、守田の鋭いカットインやポストプレーで得点を着実に重ねて点差を広げた。

後半1分、場内停電で15分間の中断があり、釧路北も平岩の得点で反撃に出るが、深浦は後半も守田を中心に足を使った攻撃でチーム全員で得点を重ねた。

得	〔深浦〕		〔釧路北〕	得
0	山本	GK	長	0
0	森田	GK	杉本	0
0	岩本	FP	照井	0
9	守田	FP	石黒	1
8	保科	FP	岡田	1
3	岩本	FP	山本	1
0	前川	FP	平岩	2
3	竹尾	FP	山崎	1
0	森野	FP	石岡	0
0	有本	FP	駄場	0
3	宮本	FP	熊倉	0
0	叶井孝	FP	境	0
0	叶井和	FP	辻	0
0	橋本	FP	西部	0
0	下松	FP		
26	(2)	PT	(0)	6

（審・島崎 井上）

2回戦

松橋 14 〔7―6, 7―5〕 11 板津

〔戦評〕両チームとも大声援の中あがることもなくのびのびと行ない、1点を争う好ゲームとなった。

松橋は米満、森山を中心にロングシュート、ポストプレーで攻めるのに対して、板津はGK江指の好守から得点を重ねていった。

後半18分、退場で1人欠けていた松橋は再び米満の決定的なロングシュートが決まり、勝利を収めた。

得	〔松橋〕		〔板津〕	得
0	鶴崎	GK	江指	0
0	山田	GK	石田	0
1	永井	FP	佐伯	1
1	内山	FP	沢田	2
1	森川	FP	堂道	3
0	吉田	FP	杉永	2
7	米満	FP	中村	0
0	松本	FP	灰田	1
0	秋山	FP	久司	0
0	渕上	FP	山岸	0
4	森山	FP	石黒	0
0	池田	FP	中野	2
0	米村	FP	山本	0
0	上田	FP	林	0
0	外村	FP	井上	0
14	(1)	PT	(2)	11

（審・古冨 岡村）

中野 27 〔11―11, 10―10, 3―1, 3―2〕 24 日新

〔戦評〕日新は松山にボールを集めロングシュートで勝負。一方中野は6人の粒がそろっており、どこからでも攻撃ができるチームである。

中盤より中野は松山をマンツーマンディフェンスし、一時日新の攻撃の歯車が狂った。その後、フリースローからの松山のロングシュートが決まり、一進一退の油断のならない好ゲームとなった。

終盤、日新は追いつき延長戦となるが、よく守り、確実にシュートを決めた中野が追いすがる日新をふり切った。

得	〔中野〕		〔日新〕	得
0	諸橋	GK	三木	0
0	大澤	GK	荒木	0
1	佐々木	FP	河村	2
1	紅林	FP	松山	12
9	佐藤	FP	森野	1
1	柴田	FP	井上	4
5	須藤	FP	牧	3
0	真弓	FP	津田	2
3	松池	FP	中村	0
6	北川	FP	広山	0
0	北澤	FP	松永	0
0	生野	FP	大庭	0
0	伊藤	FP	川添	0
0	金井	FP	西嶋	0
0	遠藤	FP	島口	0
27	(3)	PT	(3)	24

（審・島崎 井上）

楠 19 〔8―5, 11―6〕 11 国分寺第五

〔戦評〕スタートから両チームとも激しい攻防をくり返す。まず楠が国分寺第五のディフェンスのスキをついたカットインで得点を重ねて次第にリードを広げ、前半を8―5で折り返す。

後半に入って国分寺はペースをつかむかと思われたが、エースの佐々木の退場もあって結局19―11で楠が勝利を収めた。

得	〔楠〕		〔国分寺五〕	得
0	中島	GK	井上	0
0	鈴木	GK	天野	0
6	西村	FP	小野	3
0	大野	FP	水落	3
5	宮川	FP	斉藤	0
4	福田	FP	荒谷	0
0	冨田	FP	佐々木	3
3	恩田	FP	永田	2
0	吉岡	FP	間野	0
0	牧野	FP	柴田	0
0	芦田	FP	内藤	0
0	蓑輪	FP	尾石	0
0	松井	FP	坂上	0
0	後藤	FP	高橋	0
1	渡	FP	片寄	0
19	(0)	PT	(1)	11

（審・山根 赤地）

松陽 18 〔7―8, 11―5〕 13 深浦

〔戦評〕松陽が神吉、中野のロングシュートで得点すれば、深浦も守田を中心とした攻めで対抗、1点を争う展開となり、8―7と深浦の1点リードで前半を終了。

後半に入っても1点をめぐる攻防は変わらず、松陽・神吉がロングシュートを決めれば、深浦はフォーメーションでリードを守ろうとしたが、松陽GKの塩井の好キーピングなどで攻めあぐみ、松陽が逆転勝ちを収めた。

得	〔松陽〕		〔深浦〕	得
0	塩井	GK	山本	0
0	米田		森田	0
7	神吉	FP	岩本稔	3
3	中野		守田	3
0	原		保科	5
6	中根	〔審・増田 佐倉〕	岩本裕	2
0	添田		前川	0
0	黒田		竹尾	0
1	網干		森野	0
0	岡		有本	0
1	紙谷		宮本	0
0	佳		叶井孝	0
0	寺岡		叶井和	0
0	福井		橋本	0
0	神谷		下村	0
18	(1)	PT	(4)	13

男子は松橋中が二連覇を飾る

準決勝

松橋 22 （12—5 10—5） 10 中野

〔戦評〕序盤、松橋・森山、米満、中野・佐藤、須藤のロングシュートの打ち合いで早いテンポのゲーム展開となった。中野は10分過ぎ足首を痛めた佐藤が交代してから動きが鈍り、松橋の速い動きからのロングシュート、カットインで一気に点差を広げられた。

後半に入っても終始コートいっぱいに動き回った松橋はロングシュートを中心に多彩な攻めで中野を圧倒した。

得	〔松橋〕		〔中野〕	得
0	鶴崎	GK	諸橋	0
0	山田		大澤	0
2	永井	FP	佐々木	1
2	内山		紅林	2
0	森川		佐藤	4
6	吉田	〔審・島崎 井上〕	柴田	0
6	米満		須藤	2
0	松本		真弓	0
2	秋山		松池	1
0	渕上		北川	0
10	森山		北澤	0
0	池田		生野	0
0	米村		伊藤	0
0	上田		金井	0
0	外村		遠藤	0
22	(1)	PT	(0)	10

楠 18 （7—5 11—9） 14 松陽

〔戦評〕前半、楠は西村のミドルシュートや福田のカットイン、恩田のサイドからのシュートと素早い展開から着実に得点を重ねた。一方松陽は、神吉、中野のロングシュートを軸にフォーメーションを組み立て、果敢にシュートを放ったり、相手のミスをついて速攻、ノーマークとなり、得点のチャンスが何度かあったが、楠GK鈴木の好守に阻まれ、リードを許したまま前半を終了した。

後半に入り、楠は福田の鋭いフェイントやカットインからチャンスを広げて得点。松陽も神吉のロングシュートに頼りすぎ、攻撃がやや単調になった。攻撃の多様さGKの守備力に勝る楠が松陽の追撃を押さえて勝利した。

得	〔楠〕		〔松陽〕	得
0	中島	GK	塩井	0
0	鈴木		米田	0
5	西村	FP	神吉	5
4	大野		中野	4
0	宮川		原	0
5	福田	〔審・増田 佐倉〕	中根	2
1	冨田		添田	1
2	恩田		黒田	0
0	吉岡		網干	1
0	牧野		岡	0
0	芦田		紙谷	0
0	蓑輪		佳	1
0	松井		寺岡	0
0	後藤		福井	0
1	渡		神谷	0
18	(2)	PT	(3)	14

決勝

松橋 18 （9—6 9—5） 11 楠

〔戦評〕松橋がフリースローから確実に得点してゆけば楠はフェイントからのサイドシュートで同点としてゆき、一進一退の攻防が続いた。松橋・米満と森山がマークされているなか、内山のカットイン、速攻が冴え、前半9—6と松橋が頭一つリードした。

後半に入っても互いに譲らない展開であったが、フリースローからの米満の確実なシュートと森山のカットイン、永井のミドルシュートで粘る楠を僅かずつ引き離していった。

結局シュート力で勝る松橋が18—11と楠を破り、全国優勝を成し遂げた。

得	〔松橋〕		〔楠〕	得
0	鶴崎	GK	中島	0
0	山田		鈴木	0
1	永井	FP	西村	3
4	内山		大野	3
0	森川		宮川	2
0	吉田	〔審・古冨 岡村〕	福田	1
7	米満		冨田	0
0	松本		恩田	1
0	秋山		吉岡	0
1	渕上		牧野	0
4	森山		芦田	0
1	池田		蓑輪	0
0	米村		松井	0
0	上田		後藤	0
0	外村		渡	1
18	(0)	PT	(1)	11

女子

1回戦

小津（大阪） 21 （12—6 9—7） 13 安慶田（沖縄）

〔戦評〕安慶田はカットインやフォーメーションを中心に、一方小津はロング、ポスト、サイドと多彩な攻撃で試合が展開された。しかし、ポスト、サイドで確実に得点を重ねた小津が前半を大きくリードした。

後半に入り、安慶田の池原などの活躍で一進一退の試合となったが、小津の前半のリードがものをいい、小津が勝利を収めた。

得	〔小津〕		〔安慶田〕	得
0	久志木	GK	前島	0
0	中竹		伊佐	0
3	大井	FP	中村	1
4	平石		當山	1
4	辻川		比嘉	0
3	木村	〔審・中森 吉本〕	川上真	1
2	中曽		喜友名	0
5	安井		池原	10
0	奥野		喜久山	0
0	福田		棚原	0
0	和田		友利	0
0	妹尾		桑江	0
0	北村		志喜屋	0
0	平崎		川上渚	0
0	神田			
21	(2)	PT	(1)	13

国分寺（栃木） 11 （8—3 3—4） 7 小杉（富山）

〔戦評〕前半、シュートチャンスは五分五分であったが、小杉にシュートやラインクロスでミスが目立つ一方国分寺はロングシュートなど確実に得点していった。

後半、互いに決め手を欠き、点が入りにくくなったが、前半のリードがきき、接近戦をものにした。

得	〔国分寺〕		〔小杉〕	得
0	渡辺	GK	広瀬	0
0	鈴木		長谷	0
2	石田	FP	辰口	0
3	岡本		今泉	3
4	松山		新村	4
1	高瀬	〔審・野村 中所〕	光地	0
0	篠原		表	0
1	阿部		鶴谷	0
0	島崎		池原	0
0	白石		岡崎	0
0	青木		坂又	0
0	小口		島	0
0	藤田		高田	0
0	福田		高長	0
0	永井		土台	0
11	(3)	PT	(1)	7

城山（愛知）12〔4—6／8—4〕10 **山田**（香川）

〔戦評〕前半は、両チームとも決め手に欠け一進一退の試合展開であった。

後半5分、山田が1点差に詰め寄られたところでフォーメーションをきれいに決めて山田が有利かと思われたが、城山は相手のミスをつき林のシュートで逆転に成功、その後も差実に得点をあげて勝利を収めた。

	得	〔城山〕	〔山田〕	得
GK	0	藤栄	三好	0
GK			長尾	0
FP	1	坪井	松本	0
FP	2	中村孝	植田	1
FP	5	中村朋	久保	0
FP	3	原田	平井	1
FP	1	林	三谷	2
FP	0	酒井	中井	0
FP			十河ま	3
FP			溝渕	3
FP			新開	0
FP			壺井	0
FP			十河昌	0
FP			一村	0
FP			淀谷	0
PT	12	(4)	(3)	10

（審・増田 佐倉）

玖珂（山口）17〔10—2／7—4〕6 **東根第一**（山形）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともシュートミスが目立ち、なかなか得点にならなかったが、10分あたりから玖珂の動きが良くなり、セット、速攻が決まり、点差が開いていった。

東根第一も寒河江を中心によく攻めたが、玖珂の厚いディフェンスを崩すことができなかった。

	得	〔玖珂〕	〔東根一〕	得
GK	0	河本安	柴田	0
GK	0	正木	日野	0
FP	5	末森	寒河江	2
FP	2	佃	元木	1
FP	5	中村	奥山	0
FP	1	西岡	高橋	2
FP	2	田中	石井	1
FP	2	河本千	星川	0
FP	0	菱沼	天野	0
FP	0	田村	村川	0
FP	0	藤本	松岡	0
FP	0	吉本	早坂	0
FP	0	佐藤	工藤	0
FP	0	坂上	戸村	0
FP	0	岩橋	村形	0
PT	17	(2)	(1)	6

（審・佐藤 真嶋）

西笹川（三重）16〔8—5／8—3〕8 **真備東**（岡山）

〔戦評〕セットで得点してゆく西笹川に対して真備東はペナルティシュートで得点を重ね、対抗していくが、セットに強い西笹川が3点をリードして前半を終了した。

後半に入っても、西笹川・安田を中心としたパス回しもよく、速攻も決まりリードを5点と広げたのに対し、真備東はセットで攻め切れず、16—8で西笹川が快勝した。

	得	〔西笹川〕	〔真備東〕	得
GK	0	栗栖	見附	0
GK	0	岩花		
FP	7	安田	佐藤	0
FP	1	野呂	高木	7
FP	5	加藤	堀口	0
FP	1	橋本	塩見	0
FP	1	笠原	角木	0
FP	1	前川	横溝	1
FP	0	山田	三宅	0
FP	0	須藤	納村	0
FP	0	今井	佐野	0
FP	0	石田	新納	0
FP	0	田辺	山下	0
FP	0	山下	堀江	0
FP			白神	0
PT	16	(1)	(5)	8

（審・野村 中所）

大島（東京）21〔12—6／9—3〕9 **友泉**（福岡）

〔戦評〕大島・嶋本、星、水落がロングシュートやカットインで得点すれば、友泉は中野、井石を中心としたロングシュートで反撃、一進一退の攻防をくり広げたが、速攻力で上回る大島が前半を12—6とリードして折り返した。

後半、友泉は中野がロングシュートを狙ってくるが、なかなか得点とならない。一方大島は、フェイントからのカットインやサイドシュートなどで確実に得点を重ねていった。

結局、速攻、遅攻ともに勝る大島が21—9で友泉を下した。

	得	〔大島〕	〔友泉〕	得
GK	0	古山	西川	0
GK	0	太田	藤村	0
FP	4	嶋本	中野	5
FP	7	星	西津	0
FP	5	水落	井石	4
FP	2	増田	一ノ瀬	0
FP	2	鈴木	井上	0
FP	1	宮崎	吉田	0
FP	0	四反田	山本	0
FP	0	辻	仲西	0
FP	0	庄司	上杉	0
FP	0	元村	新原	0
FP	0	小曽戸	岡本	0
FP	0	早坂	天野	0
FP	0	梅原	奥村	0
PT	21	(2)	(2)	9

（審・中森 吉本）

住吉（山口）23〔10—0／13—1〕1 **青葉**（北海道）

〔戦評〕前半から住吉のペースで、住吉は甲斐の鋭いカットインや速攻などで着実に得点を重ねていった。それに対し、青葉は住吉のディフェンスを崩せず、前半を0—10と大きく水をあけられて折り返す。

後半に入っても、住吉の勢いは衰えず、結局23—1という大差で住吉が勝利を収めた。

	得	〔住吉〕	〔青葉〕	得
GK	0	徳原	松平	0
GK	0	玉野	江原	0
FP	2	中俣	桂田	0
FP	0	和山	大野	0
FP	3	甲斐	永峰	0
FP	1	柘植	森	1
FP	4	青崎	清水	0
FP	3	東	高水	0
FP	2	和田森	有野	0
FP	2	有井	田中	0
FP	0	金子	三上	0
FP	1	村上	菅	0
FP	4	松原	前野	0
FP	1	岸村	安達	0
FP	0	秋山		
PT	23	(2)	(0)	1

（審・佐藤 真嶋）

大瀬（奈良）12〔9—3／3—3〕6 **明倫**（福井）

〔戦評〕大瀬はセットプレーから確実に得点を重ねていき、スタートから7—0とリードを広げる。明倫もペナルティースローなどで得点を重ねるが、前半を終わって3—9と6点差を許してしまう。

後半に入ってからは、両チームともミスが目立ちなかなか得点に結びつかない。結局、前半のリードが大きく響き、大瀬が勝利を収めた。

	得	〔大瀬〕	〔明倫〕	得
GK	0	中井	佐藤	0
GK	0	東院		
FP	2	吉川	宮本	3
FP	3	中嶋	野村奈	0
FP	0	小山	山崎	2
FP	3	中尾恭	鈴木	0
FP	2	河野	出口	0
FP	0	中尾嘉	林	0
FP	0	中井	森	1
FP	0	寺岡	野村委	0
FP	0	牛田	石田	0
FP	0	岩田	戸田	0
FP	0	田中	北野	0
FP	0	深澤	野田	0
FP			吉田	0
PT	12	(4)	(2)	6

（審・増田 佐倉）

2回戦

小津 11〔8—6／3—4〕10 **国分寺**

〔戦評〕国分寺のロングシュートによるセットオフェンスと小津のフェイントによってボールをつないでいく攻防となったが、前半はサイドシュート力に勝る小津が押し気味に試合を展開した。

後半に入り、国分寺がよく守り、小津に攻め手がなくなり、国分寺が押し気味に進めたが、前半の点差を追いつくことができなかった。

	得	〔小津〕	〔国分寺〕	得
GK	0	久志本	渡辺	0
GK	0	中竹	鈴木	0
FP	4	大井	石田	2
FP	3	平石	岡本	3
FP	1	辻川	松山	1
FP	1	木村	高瀬	2
FP	2	中曽	篠原	1
FP	0	安井	阿部	1
FP	0	奥野	島崎	0
FP	0	福田	白石	0
FP	0	和田	青木	0
FP	0	妹尾	小口	0
FP	0	北村	藤田	0
FP	0	平崎	福田	0
FP	0	神田	永井	0
PT	11	(2)	(0)	10

（審・長井 加藤）

玖珂 19〔9—6／10—5〕11 **城山**

〔戦評〕両チームとも守りが堅く前半10分間で4—4という展開。13分過ぎ、速攻を中心とした速い攻めに転じた玖珂がじわじわと点差を広げ始め、9—4で前半を折

	得	〔玖珂〕	〔城山〕	得
GK	0	河本安	藤栄	0
GK	0	正木		
FP	4	末森	坪井	1
FP	2	佃	中村孝	2
FP	4	中村	中村朋	4
FP	4	西岡	原田	3
FP	2	田中	林	0
FP	3	河本千	酒井	1
FP	0	菱沼		
FP	0	田村		
FP	0	藤本		
FP	0	吉本		
FP	0	佐藤		
FP	0	坂上		
FP	0	岩崎		
PT	19	(0)	(1)	11

（審・長井 加藤）

り返した。
後半に入り、城山の球回しが良くなり、原田のポストプレーや中村のロングで得点を重ね、6分過ぎには10—10の同点として試合はふり出しに戻った。しかし、ミスの少ない玖珂が後半12分あたりからパスカット、速攻を決め始め、6連続得点で城山を突き放した。

大島17〔9—3 8—5〕8西笹川

〔戦評〕星を中心としたロングシュートやカットインで得点を重ねる大島に対し、西笹川は加藤のロングシュートで対抗する。しかし大島の水落のロングシュート、嶋本のカットインも決まり始め、前半を9—3で折り返した。
後半に入っても、大島・星の勢いは止まらず3得点を連取、その後調子の波に乗った大島が終始リードのまま西笹川に勝った。


女子は大瀬中が快勝、初優勝を飾る

得	〔大島〕		〔西笹川〕	得
0	古山	GK	栗栖	0
0	太田	GK	岩花	0
2	嶋本	FP	安田	7
7	星	FP	野呂	0
2	水落	FP	加藤	1
0	増田	FP	橋本	0
0	鈴木	FP	笠原	0
4	宮崎	FP	前川	0
1	四反田	FP	山田	0
0	辻	FP	須藤	0
0	庄司	FP	今井	0
0	元村	FP	石田	0
0	小曽戸	FP	田辺	0
0	早坂	FP	山下	0
1	梅原	FP		
17	(2)	PT	(0)	8

〔審・佐藤 真嶋〕

大瀬14〔7—1 7—4〕5住吉

〔戦評〕立ち上がりは、両チームとも果敢にカットインやフォーメーションプレーで攻め合ったが、厳しいディフェンスにあい得点に結びつかなかった。5分過ぎ、大瀬・吉川の鋭いカットインからの得点を機に波に乗り押し気味に試合を進める。住吉は大瀬の強いディフェンスの前にチャンスを生かしきれずに前半を終了した。
後半に入っても、スピード、パワーに勝る大瀬が堅実な守りから速攻、さらにロングシュートなどで終始住吉を圧倒し勝利を収めた。

得	〔大瀬〕		〔住吉〕	得
0	中井美	GK	徳原	0
0	東院	GK	玉野	0
5	吉川	FP	中俣	1
3	中嶋	FP	和山	0
5	小山	FP	甲斐	2
0	中尾恭	FP	柘植	0
3	河野	FP	青崎	1
1	中尾喜	FP	東	0
0	中川	FP	和田森	0
0	中井亜	FP	有井	0
0	寺岡	FP	金子	0
0	牛田	FP	村上	0
0	岩田	FP	松原	1
0	田中	FP	岸村	0
0	深澤	FP	秋山	0
14	(4)	PT	(1)	5

〔審・佐藤 真嶋〕

準決勝

玖珂15〔8—7 7—7〕14小津

〔戦評〕両キャプテン、大井と末森の激しい打ち合いとなり、前半は8—7と玖珂が1点をリードして終った。
後半立ち上がり、玖珂の動きがやや鈍くなり、5分小津が逆転に成功した。7分末森の再逆転シュートが決まった頃から玖珂の動きが良くなり、結局、玖珂が1点差で逃げ切った。

得	〔玖珂〕		〔小津〕	得
0	河本安	GK	久志本	0
0	正木	GK	中竹	0
8	末森	FP	大井	8
0	佃	FP	平石	2
5	中村	FP	辻川	1
1	西岡	FP	木村	1
1	田中	FP	中曽	0
0	河本千	FP	安井	2
0	菱沼	FP	奥野	0
0	田村	FP	福田	0
0	藤本	FP	和田	0
0	吉本	FP	妹尾	0
0	佐藤	FP	北村	0
0	坂上	FP	平野	0
0	岩橋	FP	神田	0
15	(1)	PT	(3)	14

〔審・古冨 岡村〕

大瀬11〔6—2 5—6〕8大島

〔戦評〕前半から緊迫したゲーム展開であったが、大瀬はキャプテンの吉川のカットインや中尾のパスカットからの速攻などで流れをつかんだ。一方大島は、エースの星のシュート、思うように決まらず、前半を2—6で折り返す。
後半に入ってからは、お互い一進一退の好ゲームとなったが、結局前半の点差が大きく響いた。

得	〔大瀬〕		〔大島〕	得
0	中井美	GK	古山	0
0	東院	GK	太田	0
4	吉川	FP	嶋本	4
2	中嶋	FP	星	2
0	小山	FP	水落	1
0	中尾恭	FP	増田	1
1	河野	FP	鈴木	0
3	中尾喜	FP	宮崎	0
0	中川	FP	四反田	0
1	中井亜	FP	辻	0
0	寺岡	FP	庄司	0
0	牛田	FP	元村	0
0	岩田	FP	小曽戸	0
0	田中	FP	早坂	0
0	深澤	FP	梅原	0
11	(3)	PT	(2)	8

〔審・山根 赤地〕

決勝

大瀬14〔7—2 7—2〕4玖珂

〔戦評〕立ち上がり両チームともに固さが見られたが、大瀬の積極的に詰めるディフェンスに玖珂の末森、中村のミドルシュートが決まらず、攻めあぐんだ。一方大瀬は、フォーメーションやフェイントからのカットインで確実に得点をあげていった。
後半も大瀬が多彩なコンビプレーで得点を重ねて玖珂を圧倒した。

得	〔大瀬〕		〔玖珂〕	得
0	中井美	GK	河本安	0
0	東院	GK	正木	0
2	吉川	FP	末森	1
4	中嶋	FP	佃	2
2	小山	FP	中村	1
0	中尾恭	FP	西岡	0
0	河野	FP	田中	0
0	中野	FP	河本千	0
0	中川	FP	菱沼	0
1	中井亜	FP	田村	0
0	寺岡	FP	藤本	0
0	牛田	FP	吉本	0
0	岩田	FP	佐藤	0
0	田中	FP	坂上	0
0	深澤	FP	岩橋	0
14	(2)	PT	(1)	4

〔審・島崎 井上〕

第32回全日本教職員選手権大会

男子は福岡教員」女子は京都教員」が制す

8月9～13日 福岡・北九州市

男子

1回戦

京都教員ク 44 〔20―6 24―6〕 12 熊本教員ク

〔戦評〕熊本は長松のサイドシュートで先制したが、京都は国府のシュートですぐに追いつき、楠本のシュートで逆転した。その後も楠本、清水を中心にスピードのある攻めで得点を重ね、大きくリードして前半を終了した。

後半に入っても京都は楠本を中心に早い展開から得点を重ねて差を広げた。一方熊本は、パスミス、シュートミスが目立ち追い上げることができないまま終了した。

得	〔京都〕		〔熊本〕	得
0	山下	GK	古田	0
0	咲本	GK		
2	国府	FP	荒木	0
1	佐久間	FP	福島	0
14	楠本	FP	宮田	1
4	池辺	FP	河野	6
2	西田	FP	野口	4
5	西村	FP	長松	1
4	中村	FP		
7	清水	FP		
5	加藤	FP		
44	(8)	PT	(0)	12

〔審・多田 杉山〕

沖縄教員 38 〔16―7 22―8〕 15 三河教員（愛知）

〔戦評〕前半10分まではお互いにサイドシュート、速攻などで点を取り合い、ほぼ互角の内容であったが、沖縄の早いパス回し、サイドシュート、速攻などで差を広げ、16―7で前半を終了した。

後半に入っても沖縄のペースは変らず、速攻などで8連続得点し一気に三河を突き放した。三河もサイドなどで2点を返したが、その後も沖縄は多彩な攻撃でリードを広げ、結局28―15の大差で三河を退けた。

得	〔沖縄〕		〔三河〕	得
0	新垣	GK	峯田	0
0	東恩納	GK	鳥井	0
3	佐平	FP	本和田	1
4	仲本	FP	榊原	1
6	大城	FP	山下	2
4	金城毅	FP	高木	6
6	仲間	FP	鈴木	2
4	高良	FP	荻之	2
4	仲田	FP	坪井	1
7	金城昭	FP	河合	0
38	(2)	PT	(1)	15

〔審・阿部羅 浜野〕

岡山教員 36 〔18―7 18―4〕 11 和歌山ク

〔戦評〕出だしから岡山が板野、山本の速攻で得点を重ね、自分たちのペースで試合を運ぶ。和歌山もセットからポストシュートを狙い反撃したが、なかなか追い上げることができず18―7で前半を折り返した。

後半に入り、和歌山は粘りこい攻撃を見せるが、岡山のディフェンスがよく守り、パスカット、シュートミスから次々に速攻を決め、徐々に点差を広げていった。

得	〔岡山〕		〔和歌山〕	得
0	板野	GK	芝山	0
		GK	吉田	0
4	中塚	FP	中川	2
6	大知	FP	山本	5
8	山本圭	FP	中野	2
6	板野	FP	福田	1
4	山本篤	FP	藤範	0
1	中山	FP	尾高	0
5	上野	FP	明渡	0
2	大塚	FP	恵須川	0
		FP	横山	0
36	(1)	PT	(2)	11

〔審・岡山 馬場口〕

山口県教員団A 23 〔11―7 12―8〕 15 黒ゆりク（石川）

〔戦評〕前半、山口はボールをよく回し、原井のカットイン、片山のロングシュートで得点する。石川も園下のロングシュート、後藤のサイドシュートで得点し1点を争うゲームとなる。しかし、山口は素晴らしいポストプレーから連取、11―7で前半を終了。

後半、山口は二次速攻からのロングシュート、サイドシュートで石川を引き離す。石川もロング、ポストで対抗するが、最後までよく走った山口の楽勝であった。

得	〔山口〕		〔石川〕	得
0	古谷	GK	北中	0
1	飯島	FP	亀田	0
2	橋本	FP	中村	0
2	吉兼	FP	中田	6
9	角	FP	後藤	5
0	岡村	FP	土田	1
3	原井	FP	園下	3
2	中村	FP	公下	0
1	倉谷	FP	立花	0
3	片山	FP		
23	(4)	PT	(3)	15

〔審・鈴木 大和〕

愛媛教員A 31 〔16―4 15―8〕 12 神奈川教員

〔戦評〕開始早々からオフェンス、ディフェンスに力の差が出たゲーム内容であった。

神奈川の単発シュートに対して愛媛の組織力を生かしたシュート、コンビプレーからのシュート、息の合った速攻などで前半12点差がついて勝負が決まった。後半も愛媛のリズムは持続され、最終的には大差がついてしまった。

得	〔愛媛〕		〔神奈川〕	得
0	竹内	GK	宮沢	0
4	田中	FP	斉田	1
6	定岡	FP	松本	2
2	金子	FP	本田	1
8	東福	FP	福田	1
5	上野	FP	大竹	5
6	川田	FP	瀧口	0
0	柳原	FP	嶋崎	1
		FP	加藤	1
31	(3)	PT	(0)	12

〔審・山本 中園〕

富山教職員 31 〔10―9 21―1〕 10 若潮ナッツ（千葉）

〔戦評〕前半、若潮が上坂のミドルシュート、ポストを使った攻撃で点を取り、一方富山は速攻で得点を重ねたが、両チームともシュートミスなどが多く、富山の1点リードで前半を終了。

後半に入り、両チームともミスがなくならず苦しい試合展開になった。しかし、5分過ぎから速攻

得	〔富山〕		〔若浦〕	得
3	順波	GK	増田	0
3	木遍上	FP	内記	1
4	栗山	FP	上坂	4
2	竹内	FP	松原	1
3	幸塚	FP	柴田	2
3	上野	FP	前嶋	1
2	沢井	FP	鶴岡	1
2	中浦	FP	石丸	0
3	金原	FP		
4	坂口	FP		
2	城川	FP		
31	(3)	PT	(0)	10

〔審・中村 松村〕

に勝る富山がリードを広げていき、ディフェンスも1・5で粘り強い守りを見せ、後半一気に引き離して富山が勝利を収めた。

愛知教員B 24 〔13―10 11―10〕 20 長崎教員

〔戦評〕前半、愛知Bがサイドシュート、ブラインドシュートなどで加点していくのに対して、長崎はミドルシュート、ポストプレーを使い、離されまいと粘りを見せていた。長崎は速攻のチャンスを愛知GKにことごとくつぶされたのが痛く、前半は13―10と愛知Bが3点をリードして終了。

後半は、若い長崎の速攻と熟練者の多い愛知のセットプレーで互角の展開を見せていた。しかし、長崎の方にミスが多く見られ、結果的にそれが点差となって表われた。

〔長崎〕	得		得	〔愛知〕
平原	0	GK	0	河合
菅	1	FP	8	早川
初村	2		1	伊藤
山村	2		4	高須
福田	5		3	細井
児玉	1		3	鵜飼
松尾	7		5	天神
三東谷	0			
白浜	0			
福田	1			
藤村	1			
(0)	20	PT	24	(1)

（審・田宮 佐伯）

スワロー（兵庫） 43 〔24―5 19―3〕 8 ポルシェク（千葉）

〔戦評〕スワローが上原のシュートで先制、その後も体力、技術に勝るスワロー兵庫が着々と得点を重ね、一方的な展開で前半を終了。

後半も相手のミスから速攻、また両45度からのロングシュートなどで得点を重ねたスワロー兵庫が大差で勝利を収めた。

〔ポルシェ〕	得		得	〔兵庫〕
五喜田	0	GK	0	近藤
宮郷	0	FP	4	浜田
志賀	0		8	竹内
高雄	3		8	保田
黒川	1		13	森本
蛯名	2		7	上原
三橋	1		0	船脇
滝本	1		3	松岡
佐藤	0			
日根野	0			
(0)	8	PT	43	(0)

（審・松島 新荘）

コンドルズ（茨城） 28 〔14―9 14―9〕 18 桃太郎ク（岡山）

〔戦評〕前半のなかばまで岡山のセットプレー、茨城の速攻などで互角のゲームであったが、終盤、茨城の速攻が決まり、14―9と5点をリードして前半を折り返した。

後半、立ち上がりから茨城が多彩なセットプレーや固いディフェンスからの速攻などで着実に加点していった。両チームともよく走るゲームであったが、後半のなかばから岡山のかえりが悪くなり、茨城がじりじりと引き離して逃げ切った。

〔岡山〕	得		得	〔茨城〕
大慰	0	GK	0	稲見
			0	横田
奥山	5	FP	1	阿部
三村	2		5	安田
青野	3		0	長谷川
赤木	2		3	佐藤
丸川	5		2	横山
西田	0		6	吉井
松岡	1		3	長谷川
			3	小島
			5	海老沢
(2)	18	PT	28	(2)

（審・吉村 秋庭）

山口県教員団B 21 〔10―12 11―7〕 19 愛媛教員B

〔戦評〕前半、山口がスローペースでリードを争うが、15分過ぎから愛媛も関谷を中心にスピードのある攻撃でリズムに乗り加点、前半を2点リードで終了。

後半、山口は巧みなパスワークで愛媛のリズムを崩し逆転、そのまま愛媛の足を封じ勝利を収めた。

〔愛媛〕	得		得	〔山口〕
中村	0	GK	0	加藤
田中	4	FP	4	坂本
関谷	0		9	赤地
石川	1		3	山根
高橋	1		1	吉本
関谷	7		0	山野
毛利	4		1	重宗
田原	2		1	林
			2	河村
			0	石田
(3)	19	PT	21	(3)

（審・井上 高橋）

いぬわしク（石川） 27 〔16―12 11―14〕 26 京都教員鴨川ク

〔戦評〕前半はディフェンスもオフェンスも足を使って素早い動きの石川が着々と加点した。京都も前半残り2分頃からよく走り、追い上げて4点差で前半を終了。

後半に入り、京都・川勝のロングシュートが決まりだし、石川のディフェンスも甘くなって反則も多く雑になってくる。しかし、石川もがんばり、接戦を逃げ切った。

〔鴨川〕	得		得	〔石川〕
島井	0	GK	0	小幡
奥西	2	FP	1	高田
福田	6		6	古橋
川勝	3		5	中村
角井	2		1	酒井
北	4		1	八十山
大島	0		7	中田
森田	1		6	田村
福地	3		0	寺山
今井	0			
谷口	5			
(1)	26	PT	27	(6)

（審・島田 葦原）

東京教員 32 〔16―6 16―11〕 17 三重教員

〔戦評〕前半、両チームともセット中心の攻防で始まったが、15分頃から三重の動きが鈍くなり、無理なシュートが多くなり、そのシュートミスなどを東京は速攻に結びつけ、また比留間、大東を中心としたセットプレーにおいてもロング、ポストなどで確実に得点をあげて16―6と大差をつけて前半を折り返す。

後半も東京のペースで展開され、スピード、スタミナともに東京が秀れ、速攻などでさらに点差を広げた。

〔三重〕	得		得	〔東京〕
神谷	0	GK	0	大和田
細川	1	FP	7	浜田
仲井	4		4	大東
片山	3		4	田代
藪内	3		2	曽我
丸山	2		7	山内
近藤	3		8	比留間
梶川	1			
(1)	17	PT	32	(1)

（審・高橋 森山）

香川教員 29（13—15／16—10）25 熊本教員ク

〔戦評〕エース北島のロングシュートを中心に組み立てる大型チーム熊本に対し、小柄ながら切れの良いカットインプレーで得点を狙う香川の対戦は、ゲーム開始早々から互角の好ゲームとなった。しかし、次第に香川のスピードあるコンビプレーが次々と決まり、6点をリードして前半を折り返した。
後半に入ると、熊本は積極的な攻撃に切り替え、3点差まで追い上げた。しかし、ここで香川はサイドアタック、速攻で再び突き放し、前半の点差を守って逃げ切った。

得	〔香川〕		〔熊本〕	得
0	大谷	GK	中野	0
		GK	金子	0
9	亀井	FP	松本	1
5	渡辺	FP	田中	3
3	泉谷	FP	川西	6
1	渡里	FP	戝満	6
0	上濱	FP	北島	5
0	西山	FP	四宮	4
2	前田	FP	野口	0
0	真島	FP		
5	片山	FP		
4	高畠	FP		
29	(3)	PT	(0)	25

（審・久保・池田）

宮崎教員A 27（16—6／11—7）13 広島県教職員

〔戦評〕前半、4分に宮崎が速攻により先制、以後宮崎は速攻を中心にコンスタントに得点を重ねた。一方広島は、相手ディフェンスを攻めあぐみ、7分30秒に米田のロングシュートでようやく初得点。その後も米田のロングシュートで対抗、前半を11—7と4点差で折り返す。
後半、宮崎は前半同様速攻を中心に着々と加点、それに対し広島はコンビが合わず得点も単発的で結局27—13で宮崎が勝利を収めた。

得	〔宮崎A〕		〔広島〕	得
0	和田	GK	三谷	0
4	花車	FP	米田	7
4	本部	FP	工藤	0
3	春山	FP	丸山	0
1	柳田	FP	渡辺	0
4	押川幸	FP	河野	1
5	渡辺	FP	万代	0
0	伊藤	FP	高	2
1	戸高	FP	上村	2
3	冨永	FP	長	0
2	押川啓	FP	渡辺	1
27	(2)	PT	(2)	13

（審・増田・中森）

愛知教員A 24（10—9／10—11／2—2／2—2／PTC 2—1）24 神奈川教員A

〔戦評〕前半立ち上がり、愛知Aが久保田、徳永の連続得点でリードする。神奈川Aは13分過ぎに市原のポストシュートで同点とし、いったんは逆転したが、愛知Aも終盤追い上げ再逆転、1点をリードして前半を終了。
後半も前半同様両チームとも早いボール回しからの攻撃と愛知AGKの好守で一進一退のゲーム展開となる。神奈川Aは17分過ぎに逆転するが、愛知Aも残り1分に再び追いつき延長戦となる。
延長戦でも両チームとも譲らず結局PTCで愛知が勝利を収めた。

得	〔愛知A〕		〔神奈川A〕	得
0	井上	GK	本地	0
4	黒沢	FP	岩田	4
5	鈴木	FP	徳永	3
1	小池	FP	岩本光	1
2	山田	FP	松本	0
4	釜田	FP	久保	4
2	市原	FP	鈴木	3
1	吉岡	FP	岩本健	9
0	遠藤	FP		
4	千葉	FP		
1	五反田	FP		
24	(3)	PT	(0)	24

（審・岡本・清水）

2回戦

京都教員ク 19（10—8／9—5）13 埼玉教員ク

〔戦評〕前半、お互い激しい攻防の中、埼玉はミドルシュート、カットインで連取するが、京都も高い位置からのロングシュート、ポストシュートが決まり有利な展開となる。GKの好守もあって9—5と京都が4点をリードして前半を終了。
後半、埼玉はステップシュート、カットインで得点をあげるが、京都はディフェンスを固め、速攻、ロングシュート、スカイプレーなど多彩な攻撃で埼玉をふり切った。

得	〔京都〕		〔埼玉〕	得
0	山下	GK	大崎	0
0	咲本	GK	田中秀	0
6	国府	FP	田中英	7
1	佐久間	FP	伊藤	2
9	楠本	FP	岩本	0
0	池辺	FP	池田	1
1	西田	FP	山中	1
1	西村	FP	綿引	2
0	中村	FP	谷井	0
0	清水	FP	野平	0
1	加藤	FP		
19	(5)	PT	(3)	13

（審・吉村・秋庭）

茨苑ク（茨城）28（11—4／17—7）11 瀬戸大橋オールスターズ（岡山）

〔戦評〕前半出だしから攻守ともに勝る茨苑クラブが速攻で着々と加点し、大きくリードして前半を終えた。
後半に入っても茨苑クラブのペースは変わらず、瀬戸大橋オールスターズの反撃も散発的に終り、茨苑クが余裕をもってふり切った。

得	〔茨苑〕		〔瀬戸〕	得
0	太田	GK	野島	0
0	雨谷	GK		
6	今井	FP	光本	1
4	高野	FP	川西	0
1	浜野	FP	依田	1
3	福田	FP	大久保	1
4	黒石	FP	山田	3
5	松信	FP	矢野	2
5	北村	FP	三宅	0
0	久保田	FP	越後谷	0
		FP	小松	1
		FP	洲脇	2
28	(1)	PT	(0)	11

（審・中村・松村）

沖縄教員 24（11—9／13—3）12 福井教員

〔戦評〕沖縄は速いパス回しで福井のディフェンスを崩して加点する。さらに中盤からは福井のパスミス、シュートミスを速攻につなげ、一方的な展開となる。福井も竹野のロングシュートを軸に攻めるが、沖縄のディフェンスが堅く得点があげられない。
後半に入っても前半の流れは変わらず、福井もよく食い下がったが、沖縄がそのまま逃げ切った。

得	〔沖縄〕		〔福井〕	得
0	新垣	GK	柴田	0
0	東恩納	GK		
6	佐平	FP	竹野	4
3	仲本	FP	半田	4
2	大城	FP	田安	1
5	金城毅	FP	加納	0
4	仲間	FP	小林	1
3	高良	FP	岩元	2
0	仲田	FP		
1	金城昭	FP		
24	(0)	PT	(1)	12

（審・杉山・多田）

岡山教員 22（10—11／12—7）18 あかぎク（群馬）

〔戦評〕岡山は試合開始よりロングシュートや速攻で加点し、常にリードを奪ってゲームを有利に進める。一方あかぎクラブもサイドシュート、速攻で得点するが、岡山のディフェンスを崩すことができず、5点差で前半を終了。
後半、あかぎクも懸命の追い上げを見せてゲームを盛り上げたが、岡山のGKの好守に阻まれ、前半の点差を詰め切れずに終った。

得	〔岡山〕		〔あかぎ〕	得
0	板野清	GK	野口	0
5	中塚	FP	桜井	3
2	大和	FP	寺山	1
3	山本圭	FP	今井	3
3	板野守	FP	票田	3
1	山本篤	FP	新井	6
2	中山	FP	小金沢	0
5	上野	FP	譲原	2
1	大塚	FP	小島	0
22	(3)	PT	(0)	18

（審・佐伯・四宮）

山口県教員団A 29（13—11／16—11）22 宮崎教員B

〔戦評〕スピードに勝る山口が、

飯島、橋本を中心に機動力を生かしたプレーを展開し、点差を広げる。一方宮崎は、山口の組織ディフェンスを突破することができず、苦しい試合運びとなった。

後半に入ると、一進一退をくり返すが、若さに勝る山口が徐々に引き離し勝利を収めた。

得	〔山口A〕		〔宮崎B〕	得
0	古谷	GK	石原	0
4	飯島	FP	末廣	1
6	橋本		石原口	5
3	吉兼		長野	1
3	角		船木	6
3	岡村		巣立	9
2	原井		曽原	0
2	中村		米倉	0
3	白川	〔審・島田 葦原〕		
1	倉谷			
2	片山			
29	(0)	PT	(1)	22

愛媛教員A 21〔10—5 / 11—3〕8 静岡教員団

〔戦評〕前半、静岡は愛媛の堅いディフェンスを攻め切れず、シュートミス、パスミスなどが目立ち、逆速攻から点を取られるという形となり、苦しい展開。

後半に入っても、シュート力、脚力に勝る愛媛は攻撃の手をゆるめず、静岡を圧倒した。

得	〔愛媛A〕		〔静岡〕	得
0	竹内	GK	能勢	0
4	田中	FP	太田	2
0	定岡		大石	0
2	金子		村松	2
3	東福		小野	1
6	上野		佐塚	0
6	川田		清水	2
0	柳原		栗田	1
		〔審・松島 新荘〕	桐下	0
21	(2)	PT	(2)	8

わかくさク（奈良）25〔9—11 / 16—7〕18 富山教職員

〔戦評〕富山はよく動くもののディフェンスの高いわかくさクラブを攻め切れず、また、わかくさクはロング、サイド、カットインと選手がよくかみ合い、得点をあげて点差を広げた。

後半になり富山はよく動いてペースをつかみ、わかくさクは単調な攻めに動きも鈍くなり、そこを速攻などで得点したが、前半の失点が響いた。

得	〔わかくさ〕		〔富山〕	得
0	糀	GK	須波	0
0	大谷			
0	森本	FP	樋上	2
0	矢野		栗山	2
1.	小林		竹内	0
11	金丸		幸塚	2
5	村田		上野	4
4	管沼		沢井	1
4	谷		中浦	3
		〔審・松島 新荘〕	金原	1
			坂口	2
			秀永	1
25	(3)	PT	(1)	18

栃の葉ク（栃木）27〔13—3 / 14—9〕12 愛知教員B

〔戦評〕栃の葉クラブの速い攻めに対し、愛知Bはセットオフェンスを中心にしてゲームを展開した。ブラインドからのポストプレー、またGKの的確な位置どりによるキーピングにより前半は栃の葉クが5点をリードして終了。

後半は、栃の葉クの厳しいディフェンスからの速攻が決まりだし、その力の差を見せつけた。

得	〔栃の葉〕		〔愛知B〕	得
0	染谷	GK	河合	0
0	石田			
4	中田	FP	早川	4
2	四元		伊藤	0
9	山下		高須	2
1	新開		細井	1
5	武井		鵜飼	2
1	岸		天神	3
3	滝口	〔審・中森 増田〕		
2	小西			
0	中山			
0	川田			
27	(0)	PT	(1)	12

岐阜教員 25〔12—10 / 13—9〕19 スワロー兵庫

〔戦評〕立ち上がり2分過ぎまで両GKの好守もあって0—0。先取点は岐阜が飯島のステップシュートであげた。しかし、兵庫もすぐにポストで同点とし、その後一進一退の展開。前半なかばを過ぎて兵庫の足が止まったところを岐阜は速攻などで得点を重ね、13—9として前半を終了。

後半立ち上がり、岐阜が速攻などで加点、19—12とリードを広げる。兵庫も岐阜のミスをついて反撃を見せたが及ばなかった。

得	〔岐阜〕		〔兵庫〕	得
0	野田	GK	近藤	0
0	加藤			
5	名倉	FP	浜田	2
5	飯島		竹内	6
0	牧野		保田	1
5	加藤		森本	3
0	鈴木		上原	2
2	上野		船脇	1
1	西尾		松岡	4
7	高橋	〔審・吉村 秋庭〕		
0	奥村			
0	林			
25	(0)	PT	(1)	19

茨城コンドルズ 32〔16—14 / 16—7〕21 佐賀教員

〔戦評〕前半5分頃までは両チームともセットを中心とした攻撃で4—3と茨城がリードしていたが、佐賀のシュートミスや茨城GKのナイスキーピングなどを生かした逆速攻で着々と点差を広げた茨城が8点をリードして前半を終了。

後半は佐賀も粘りを見せなんとかくらいついていったが、ディフェンス力とスピードに勝る茨城が前半のリードを保って逃げ切った。

得	〔茨城〕		〔佐賀〕	得
0	稲見	GK	谷崎	0
0	横田			
4	阿部	FP	柳本	0
1	安田		白木	5
2	長谷川		三上	2
5	佐藤		川原	5
1	横山		小松	0
6	吉井		弁田	0
4	長谷川		境	5
0	小島	〔審・多田 杉山〕	宮地	2
9	海老沢		宮原	0
			中山	2
32	(3)	PT	(3)	21

埼玉ライオンズ 32〔14—14 / 18—4〕18 山口県教員団B

〔戦評〕試合開始時は互いによく

得	〔埼玉〕		〔山口B〕	得
0	牧田	GK	加藤	0
1	稲村	FP	坂本	2
6	寿川		赤地	2
6	井川		山根	6
1	吉田		吉本	1
5	久保		山崎	5
3	塚本		林	0
1	渡辺		河村	1
3	石塚	〔審・井上 高橋〕	村田	0
1	古平		古冨	0
5	谷本		石田	1
32	(1)	PT	(3)	18

守り、ロースコアーの試合と思われた。しかし、山口は埼玉のスピードについていけず、速攻を次々と決められて点差は開くばかり。
後半に入り、山口もカットインやステップで反撃するが、前半の失点が大きく逃げ切られた。

福岡教員 30 (9—6, 21—4) 10 いぬわしク

〔戦評〕前半は大型の福岡のロングシュートに対していぬわしクラブは速い動きで応戦したが、ディフェンスの荒さがやや目立った。力強い攻撃を見せた福岡が3点をリードして前半を終了。
後半は福岡がよく走り、徐々に点差を広げていった。いぬわしクは福岡のディフェンスを突破できず、反撃もままならずに終った。

〔いぬわし〕

	選手	得
GK	小幡	0
FP	高田	0
FP	古橋	1
FP	中村	1
FP	酒井	0
FP	八十山	0
FP	中田	5
FP	田村	3
FP	寺山	0
PT	(1)	10

〔福岡〕

	選手	得
GK	七条	0
GK	沢井	0
FP	野田	2
FP	山崎	1
FP	牧島	6
FP	古賀	4
FP	塩山	2
FP	藤田	4
FP	白木	2
FP	平野	2
FP	堤	2
FP	早川	5
PT	(2)	30

（審・池田 久保）

東京教員 27 (11—13, 16—8) 21 鹿野ク（奈良）

〔戦評〕東京が浜田の3連取で優勢な立ち上がりを見せたが、鹿野クラブもリバウンド、カットインで追いつき、東京・山内の退場の間に2点を連取して逆転した。その後一進一退の攻防を見せて、鹿野クの2点リードで前半を終了。
後半も一進一退の展開を見せたが、10分過ぎに東京が追いつき、16分過ぎから東京が4点を連取、一気にペースに乗って勝利を収めた。

〔鹿野〕

	選手	得
GK	森	0
FP	藤田	1
FP	吉川	2
FP	鳥飼	7
FP	染川	1
FP	山田	7
FP	村田	1
FP	鈴木	0
FP	堀内	1
FP	伊藤	1
PT	(1)	21

〔東京〕

	選手	得
GK	大和田	0
FP	浜田	4
FP	大東	6
FP	田代	3
FP	曽我	4
FP	山内	3
FP	比留間	7
PT	(2)	27

（審・中園 山本）

滋賀教員 20 (8—14, 12—5) 19 香川教員

〔戦評〕滋賀が能波と井上のポストとサイドシュートで得点していったが、香川は高畠と片山の速攻で着々と加点、14—8と6点をリードして前半を折り返す。
後半に入ると、今度は逆に滋賀の速攻が決まりだし、10分過ぎには逆転、その後香川も反撃して同点としたが、残り15秒、滋賀・能波の速攻が決まって勝負がついた。

〔香川〕

	選手	得
GK	大谷	0
FP	亀井	2
FP	渡辺	4
FP	泉谷	1
FP	渡里	5
FP	上濱	0
FP	西山	0
FP	前田	1
FP	真島	0
FP	片山	2
FP	高畠	4
PT	(1)	19

〔滋賀〕

	選手	得
GK	松山	0
FP	位田	0
FP	伊藤	3
FP	能波	4
FP	井上	9
FP	武田	2
FP	大野	2
FP	橋山	0
FP	林田	0
PT	(2)	20

（審・岡山 馬場口）

千葉教員 26 (17—10, 9—10) 20 宮崎教員A

〔戦評〕お互いにポスト、ロングを使った攻めで互角の展開。14分過ぎから千葉が仲村、飯名、仲村と3点を連取してリードを奪い、さらに20分過ぎにも3点を連取、7点をリードして前半を終了。
後半に入り、宮崎は柳田のロングを中心に冨永らがよく走り、3点差まで詰め寄ったが、千葉も仲田らの得点で再度突き放して逃げ切った。

〔宮崎A〕

	選手	得
GK	和田	0
FP	花車	0
FP	本部	0
FP	春山	2
FP	柳田	5
FP	押川幸	4
FP	渡辺	3
FP	伊藤	0
FP	戸高	1
FP	冨永	4
FP	押川啓	1
PT	(0)	20

〔千葉〕

	選手	得
GK	平松	0
GK	数藤	0
FP	川鍋	4
FP	仲村	5
FP	仲田	7
FP	佐々木	0
FP	寺田	0
FP	大鐘	4
FP	飯名	3
FP	泉水	0
FP	加藤	2
FP	浅原	1
PT	(2)	26

（審・中園 山本）

愛知教員A 20 (12—10, 8—9) 19 長野教員

〔戦評〕前半、愛知は岩本のロングシュートを中心に、長野はポストを使った攻撃を中心に戦い、12—10と愛知の2点リードで折り返す。
後半に入っても両チームともに攻撃パターンは変わらず、1点を争うゲームとなった。長野が速いパス回しで懸命に追い上げたが、愛知は1点を守って逃げ切った。

〔長野〕

	選手	得
GK	伴野	0
GK	北島	0
FP	竹内	0
FP	塩川	2
FP	行田	5
FP	中条	2
FP	小山	4
FP	小笠原	1
FP	岩下	0
FP	鳥谷越	5
FP	若林	0
FP	大平	0
PT	(3)	19

〔愛知A〕

	選手	得
GK	本地	0
FP	岩田	1
FP	徳永	1
FP	岩本光	4
FP	松本	0
FP	久保田	3
FP	鈴木	2
FP	岩本健	9
PT	(1)	20

（審・岡山 馬場口）

3回戦

京都教員ク 35 (17—5, 18—11) 16 茨苑ク

〔戦評〕地力に勝る京都が多彩な攻撃からコンスタントに得点をあげ、前半で勝負を決した。
後半に入り、茨苑クも必死の反撃を見せたが、京都の高いディフェンスに最後まで苦しみ、得点差を詰めることができなかった。

〔茨苑〕

	選手	得
GK	太田	0
GK	雨谷	0
FP	今井	0
FP	高野	5
FP	浜野	1
FP	福田	2
FP	黒石	3
FP	松信	4
FP	北村	1
FP	久保田	0
PT	(0)	16

〔京都〕

	選手	得
GK	山下	0
GK	咲本	0
FP	国府	3
FP	佐久間	6
FP	楠本	3
FP	池辺	1
FP	西田	3
FP	西村	6
FP	中村	6
FP	清水	1
FP	加藤	4
FP	酒井	2
PT	(2)	35

（審・佐伯 四宮）

沖縄教員 31 〔15―9／16―13〕 22 岡山教員

〔戦評〕立ち上がり岡山は相手シュートミスを速攻につなげ7点を先取したが、沖縄も速攻、速いボール回しからの攻撃などで応戦、互角の試合となった。15分過ぎから相手ミスをすべて得点に結びつけ、6点を連取した沖縄が前半をリードした。

後半に入り、岡山はセットからのロング、サイドシュート、沖縄は速攻での得点でともに譲らぬ好試合となったが、前半のリードを生かした沖縄が勝利を収めた。

	〔岡山〕	得
GK	板野清	0
FP	中塚	4
	大和	1
	山本圭	6
	板野守	4
	山本篤	1
	中山	3
	上野	3
PT		(0) 22

（審・鈴木、大和）

	〔沖縄〕	得
GK	新垣	0
	東恩納	0
FP	佐平	8
	仲本	4
	大城	6
	金城毅	1
	仲間	2
	高良	7
	仲田	1
	金城昭	2
PT		(4) 31

山口県教員団A 25 〔12―8／13―12〕 20 愛媛教員団A

〔戦評〕山口の角が左45度からのロングシュートで先制、その後山口は多彩な攻撃で着実に得点を重ねる。一方愛媛は、山口の堅いディフェンスを攻めあぐみ思うように得点が伸びず、終盤追い上げたものの12―8と山口の4点リードで前半を折り返す。

後半、山口のセットプレーに対し愛媛は相手のミスから得意の速攻につなげ、全く互角の展開を見せるが、前半のリードを守った山口が逃げ切って勝利を収めた。

	〔愛媛A〕	得
GK	竹内	0
FP	田中	4
	定岡	2
	金子	5
	東福	3
	上野	5
	川田	1
	柳原	0
PT		(4) 20

（審・岡本、清水）

	〔山口〕	得
GK	古谷	0
FP	飯島	3
	橋本	3
	吉兼	3
	角	6
	岡村	0
	原井	4
	中村	2
	和田	0
	倉谷	3
	片山	1
PT		(0) 25

栃の葉クラブ 29 〔14―6／15―15〕 21 わかくさクラブ

〔戦評〕立ち上がり、両チームともに雑な攻めであったが、栃の葉クラブが先にペースをつかみ、14―6と大きくリードを奪って前半を終えた。

後半に入ると全く一進一退の互角の展開となり、わかくさクラブも懸命の反撃を見せたが、前半の点差が大きく及ばなかった。

	〔わかくさ〕	得
GK	糀	0
	大谷	0
FP	森本	1
	矢野	0
	小林	4
	金丸	3
	村田	10
	管沼	0
	谷	3
PT		(1) 21

（審・池田、久保）

	〔栃の葉〕	得
GK	染谷	0
	石田	0
FP	中田	3
	四元	2
	山下	2
	新開	0
	武井	5
	岸	3
	滝口	8
	小西	0
	中山	4
	川田	2
PT		(2) 29

岐阜教員 25 〔12―8／13―10〕 18 茨城コンドルズ

〔戦評〕岐阜は林、名倉の速攻でリード、一方茨城は海老沢のミドル、吉井のサイドで反撃するが、10分過ぎよりディフェンスに疲れが見えだし、退場者を出す間に着実にリードを広げて逃げ切った。

	〔茨城〕	得
GK	稲見	0
	横田	0
FP	阿部	1
	安田	0
	長谷川	0
	佐藤	1
	横山	0
	吉井	5
	長谷川	2
	小島	3
	海老沢	6
PT		(1) 18

（審・松村、中村）

	〔岐阜〕	得
GK	野田	0
	加藤	0
FP	名倉	4
	飯島	2
	牧野	0
	川瀬	0
	加藤	8
	鈴木	0
	上野	5
	西尾	0
	高橋	3
	林	3
PT		(4) 25

福岡教員 30 〔15―11／15―10〕 21 埼玉ライオンズ

〔戦評〕福岡は立ち上がりからスピードのある攻撃で速攻、セットからのロングシュートなど多彩な攻めで得点を重ねた。一方埼玉もテクニカルなシュートで高い福岡のディフェンスを崩し、食いついて前半を15―11で折り返した。

後半も福岡はスピードと高さを生かした攻撃で着々と加点、点差を広げて勝利を収めた。

	〔埼玉〕	得
GK	牧田	0
FP	稲村	3
	寿川	5
	井川	7
	吉田	0
	久保	0
	塚本	0
	渡辺	1
	石塚	4
	古平	1
	谷本	0
PT		(2) 21

（審・島田、葦原）

	〔福岡〕	得
GK	七条	0
	澤井	0
FP	野田	5
	山崎	1
	牧島	1
	古賀	3
	藤田	6
	白木	1
	平野	1
	堤	4
	早川	4
PT		(1) 30

滋賀教員 23 〔9―12／14―7〕 19 東京教員

〔戦評〕東京がミドルシュートでリードを奪うが、滋賀も山根のロングシュートを中心に反撃し、18分まで7―7の同点。しかし、東京は速攻からのポストをからめて連取、12―9と3点をリードして前半を終る。

後半立ち上がり、滋賀はサイドシュートで4点を連取して逆転。東京は攻めが単調となり、滋賀の速攻が次々と決まって勝負が決した。

	〔東京〕	得
GK	大和田	0
FP	浜田	3
	大東	5
	田代	1
	曽我	0
	小川	4
	山内	2
	比留間	4
PT		(3) 19

（審・阿部羅、浜野）

	〔滋賀〕	得
GK	松山	0
FP	位田	3
	伊藤	1
	能波	2
	井上	7
	武田	2
	大野	2
	橋山	0
	山根	4
	林田	2
PT		(5) 23

愛知教員A 24 〔12―9／12―12〕 21 千葉教員

〔戦評〕愛知は走りを生かしてフェイントや速いパスでシュートに結びつけて得点していたのに対し千葉はロング、ポスト、サイドシュートを見せたが、相手GKの好守もあって12―9と愛知が3点をリードして折り返す。

後半に入り、千葉は開始早々一気に同点としゲームを盛り上げたが、その後シュートをGKに阻止

され、逆速攻で愛知が加点、結局前半のリードを守った愛知が逃げ切った。

〔千葉〕		得
GK	平松	0
GK	数藤	0
FP	川鍋	1
FP	仲村	11
FP	仲田	1
FP	佐々木	0
FP	寺田	0
FP	大鐘	3
FP	飯名	2
FP	泉水	0
FP	加藤	3
FP	浅原	0
PT	(6)	21

（審・中村、松村）

〔愛知〕		得
GK	本地	0
FP	岩田	5
FP	徳永	1
FP	岩本	4
FP	松本	0
FP	久保田	5
FP	鈴木	4
FP	岩本	5
PT	(2)	24

4回戦

京都教員ク26 （14−7、12−8） 15沖縄教員

〔戦評〕小粒ながらきびきびした動きでフェイント、カットインプレーによる得点を狙う沖縄と大型パワフル京都の対決は、立ち上がりから京都優位で展開した。

京都はコンビプレーに力量を見せ、速攻のバランスもよく、鍛えられたチームであった。沖縄も部分的には切れの良いプレーを見せたが、勝敗を左右するところまでは至らなかった。

〔沖縄〕		得
GK	新垣	0
GK	東恩納	0
FP	佐平	2
FP	仲本	1
FP	大城	2
FP	金城毅	0
FP	仲間	3
FP	高良	3
FP	仲田	4
FP	金城昭	0
PT	(1)	15

（審・大和、鈴木）

〔京都〕		得
GK	山下	0
GK	咲本	0
FP	国府	5
FP	佐久間	1
FP	楠本	6
FP	池辺	0
FP	西田	2
FP	西村	3
FP	中村	1
FP	清水	4
FP	加藤	4
PT	(6)	26

栃の葉ク24 （13−9、11−12） 21山口県教員団A

〔戦評〕栃の葉クの山下、滝口、山口の角の打ち合いとなり、前半10分で6−5と栃の葉クが一歩リード。その後山口は栃の葉クの高いディフェンスを攻めあぐみ、13−9と栃の葉クが4点をリードして前半を折り返す。

後半に入り、両チーム互角の戦い展開するが、12分、栃の葉・山下の退場をきっかけにリズムを取り戻した山口が18−18の同点に追いつく。しかし、気力に勝る栃の葉が再び山口を突き放して逃げ切った。

〔山口〕		得
GK	古谷	0
FP	飯島	0
FP	橋本	1
FP	吉兼	4
FP	角	9
FP	岡村	0
FP	原井	3
FP	中村	3
FP	白川	0
FP	倉谷	0
FP	片山	1
PT	(2)	21

（審・岡本、清水）

〔栃の葉〕		得
GK	染谷	0
GK	石田	0
FP	中田	1
FP	四元	0
FP	山下	11
FP	新間	0
FP	武井	3
FP	岸	0
FP	滝口	9
FP	小西	0
FP	中山	0
PT	(2)	24

福岡教員26 （12−10、14−9） 19岐阜教員

〔戦評〕福岡・牧島、岐阜・加藤のロングシュートで始まった。岐阜は足を生かした速攻、カットインで加点するのに対し、福岡は野田のロング、古賀のポストシュートで応戦。18分まで10−10だったが、福岡が速攻を決めて12−10と2点をリードして前半を終了。

後半、福岡のロングシュートが決まり差が開きかけたが、岐阜もスピードを落とさず粘り、激しい試合となった。ロングの決定力が上回った福岡の高さの勝利であった。

〔岐阜〕		得
GK	野田	0
GK	加藤	0
FP	名倉	1
FP	飯島	1
FP	牧野	0
FP	加藤	9
FP	鈴木	0
FP	上野	2
FP	西尾	0
FP	高橋	2
FP	奥村	0
FP	林	4
PT	(3)	19

（審・島田、葦原）

〔福岡〕		得
GK	七條	0
GK	澤井	0
FP	野田	5
FP	山崎	0
FP	牧島	6
FP	古賀	4
FP	塩山	0
FP	藤田	2
FP	遠藤	1
FP	平野	1
FP	堤	3
FP	早川	7
PT	(0)	26

愛知教員A21 （11−8、10−12） 20滋賀教員

〔戦評〕セットプレーとテクニック主体の滋賀と速い動きからのセットと速攻の愛知というそれぞれの持ち味を出した好試合で、両チームとも譲らぬ一進一退の展開を見せたが、20−20の同点からの終了20秒前に、愛知・久保田のステップシュートが決まって、愛知が勝利を収めた。

〔滋賀〕		得
GK	松山	0
FP	位田	1
FP	伊藤	2
FP	能波	4
FP	井上	8
FP	武田	5
FP	大野	0
FP	橋山	0
FP	山根	0
FP	林田	0
PT	(1)	20

（審・阿部羅、浜野）

〔愛知〕		得
GK	本地	0
FP	岩田	3
FP	徳永	3
FP	岩本光	1
FP	松本	0
FP	久保田	3
FP	鈴木	3
FP	岩本健	8
PT	(0)	21

準決勝

栃の葉ク24 （11−9、7−9、2−2、4−2） 22京都教員ク

〔戦評〕両チームとも技術的に平均した力を持った選手が揃っており、試合開始よりハイレベルのプレーが展開された。栃の葉クは滝口を中心に5分間で3点を先行、しかし京都も菊本の速攻などで15分には1点差とし、結局11−9と栃の葉クの2点リードで前半終了。

後半立ち上がり栃の葉クがリードを広げたが、京都が中盤に逆転一時は2点のリードを奪ったが、終了寸前に栃の葉クが追いつき、延長戦に。延長戦も京都が先手をとったが、栃の葉クが滝口、武井のゲットで逆転、熱戦を制した。

〔京都〕		得
GK	山下	0
GK	咲本	0
FP	国府	4
FP	佐久間	1
FP	楠本	4
FP	池辺	0
FP	西田	3
FP	西村	4
FP	中村	1
FP	清水	2
FP	加藤	3
PT	(0)	22

（審・森山、高橋）

〔栃の葉〕		得
GK	染谷	0
GK	石田	0
FP	中田	2
FP	四元	0
FP	山下	6
FP	新開	0
FP	武井	5
FP	岸	4
FP	滝口	6
FP	小西	1
FP	中山	0
PT	(1)	24

福岡教員19（10―13、9―3）16愛知教員A

〔戦評〕愛知・岩本が先制してゲームが始まる。愛知はスピード豊かな攻撃で着々と加点、福岡も野田のロング、速攻で追いかけ、13―10と愛知の3点リードで前半を終了。

後半福岡は、パワープレーで4点を連取して逆転、その後一進一退の展開を見せたが、福岡がじりじりと引き離し逃げ切った。

〔愛知〕		得
GK	本地	0
FP	岩田	5
	徳永	0
	岩本光	2
	松本	0
	久保田	1
	鈴木	3
	岩本健	5
PT	(1)	16

〔福岡〕		得
GK	七條	0
GK	澤井	0
FP	野田	4
	山崎	1
	牧島	0
	古賀	4
	塩山	0
	遠藤	1
	白木	0
	平野	0
	堤	4
	早川	5
PT	(2)	19

（審・岡本、清水）

3位決定戦

京都教員ク28（12―3、16―7）10愛知教員A

〔戦評〕立ち上がり速攻とカットインで京都が連取、その後両チーム10分間ノーゴールと貧攻が続く。パワーと高さに勝る京都が12―3と大きくリードして前半を終了。

後半に入ると、愛知がスピードあるプレーで追い上げたが、京都は持ち前のパワーで徐々に点差を広げ、大差をつけて勝利を収めた。

〔愛知〕		得
GK	本地	0
FP	岩田	2
	徳永	3
	岩本光	3
	松本	0
	久保田	1
	鈴木	0
	岩本健	1
PT	(0)	10

〔京都〕		得
GK	山下	0
GK	咲本	0
FP	国府	4
	佐久間	4
	楠本	5
	池辺	1
	西田	1
	西村	2
	中村	3
	清水	3
	加藤	5
PT	(2)	28

（審・高橋、森山）

決勝

福岡教員29（17―13、12―12）25栃の葉ク

〔戦評〕両チームとも速い動きで決勝戦にふさわしい好ゲームとなった。福岡は、野田のロング、早川のサイド速攻を中心に全員がよく走り、好ムードで4点をリードして前半を折り返す。

後半は、両チームGKの好守で大変ひきしまった好ゲームとなる。栃の葉クラブも必死の追い上げを見せるが、福岡が前半のリードを守って逃げ切り、栄冠を獲得した。

〔栃の葉〕		得
GK	染谷	0
GK	石田	0
FP	中田	3
	四元	0
	山下	3
	新開	0
	武井	8
	岸	2
	滝口	9
	小西	0
	中山	0
	川田	0
PT	(4)	25

〔福岡〕		得
GK	七條	0
FP	野田	7
	山崎	3
	牧島	3
	古賀	1
	塩山	1
	遠藤	1
	白木	0
	平野	3
	堤	2
	早川	8
PT	(1)	29

（審・岡本、清水）

女子

1回戦

山形教員25（13―9、12―4）13茨苑ク（茨城）

〔戦評〕山形は村川のロング、小林のカットインなどで得点。茨苑クラブも矢口、大越のカットインなどで得点し、15分まで5―5と互角の展開。しかし、山形はずらしのプレーから活路を見出し、その後相手ミスからの速攻も出て、しだいに引き離し、13―9と4点をリードして前半を終了。

後半に入り、茨苑クもセットプレー、サイドへのずらしなどで反撃を試みるが、逆に山形の速攻にあい点差を広げられてしまった。

〔茨苑〕		得
GK	酒井	0
FP	横田	0
	金平	0
	矢口	7
	蓮田	0
	海老原	2
	山田	0
	大越	3
	田口	1
PT	(2)	13

〔山形〕		得
GK	渡部	0
FP	小林	5
	村川	2
	漆山	8
	飯野	3
	今野	2
	黒澤	5
PT	(0)	25

（審・大和、鈴木）

長崎ク（長崎）15（6―6、9―7）13群馬教員

〔戦評〕立ち上がりはお互い攻守にキビキビした動きで始まったが、パスミス、オーバーステップ、ラインクロスなどのイージーミスが双方に目立ち、また両GKの好守もあって6―6というロースコアのまま前半を終了した。

後半開始早々、長崎はPTを続けて2本はずし、相手ミスからの速攻もGKに好守されるなどリズムに乗り切れなかったが、最終的にはシュート数に勝った長崎が2点差をつけて逃げ切った。

〔群馬〕		得
GK	大工原	0
FP	石坂	3
	鈴木	0
	横山	0
	綿引	0
	荒瀬	7
	高木	2
	井田	0
	大沢	0
	岩田	1
PT	(2)	13

〔長崎〕		得
GK	増田	0
GK	石丸	0
FP	谷川	2
	小路	1
	石丸	0
	境	0
	中田	6
	塩津	2
	藤山	3
	郡山	1
PT	(3)	15

（審・阿部羅、浜野）

神奈川教員21（10―6、11―6）12岐阜教員女子

〔戦評〕神奈川は、ロング、ポスト、カットインなど多彩な攻撃で確実に得点を重ねた。一方岐阜もよく動いて攻めたが、神奈川の堅いディフェンスに阻まれ、10―6と神奈川が4点をリードして折り返す

後半に入っても流れは変わらず総合力に勝る神奈川が堅い守りと速攻で得点を重ね、リードを広げて勝利を収めた。

得	〔神奈川〕		〔岐阜〕	得
0	加藤	GK	今井	0
0	中野	GK	中島	0
2	野島	FP	安藤	1
9	小池	FP	森	1
0	野見山	FP	芥川	5
4	大久保	FP	杉山	4
5	岩渕	FP	奥田	1
1	安室	FP	山田	0
0	高倉	FP	安江	0
0	中村	FP		
21	(4)	PT	(1)	12

（審・鈴木 大和）

埼玉教員白小鳩 21 (10－7, 11－11) 18 兵庫教員風見鶏ク

〔戦評〕稲垣のフェイント、石井のロングを中心としたセット攻撃主体のテクニカルハンドを展開する埼玉と尾上、和田の速攻を中心としたスピードハンドを展開する兵庫は、お互いに一歩も譲らず互角の展開を見せた。しかし、防御において兵庫が再三にわたってラフプレーによる退場者を出し、その間に確実に得点をあげた埼玉が勝利を収めた。

得	〔埼玉〕		〔兵庫〕	得
0	根岸	GK	宮本	0
2	田島	GK	丸茂	0
0	七木田	FP	畑	2
5	石井	FP	呉田	2
5	稲垣	FP	尾上	7
5	百瀬	FP	小倉	2
0	大日方	FP	和田	4
0	田村	FP	中尾	1
4	七木田	FP	矢野	0
0	鈴木	FP		
21	(5)	PT	(5)	18

（審・森山 高橋）

福岡教員 31 (16－3, 15－5) 8 千葉ク(千葉)

〔戦評〕両チームとも最初から速いテンポで試合を進めるが、お互いにパスミス、シュートミスが多く、得点につながらない。ディフェンスから速攻に結びつけ、点差を広げて16—3で前半を終えた。

後半に入っても福岡の速攻やセットからの攻撃が決まり、着実に得点を重ねていった。千葉も再三福岡のゴールをおびやかすが、動きのいいディフェンスやGKの好守に阻まれ得点できなかった。

得	〔福岡〕		〔千葉〕	得
0	上野	GK	小笠原	0
7	今村	FP	大森	0
8	松田	FP	天野	1
3	藪田	FP	石塚	1
1	妹川	FP	海老根	2
1	田中	FP	上田	4
5	田中	FP	谷川	0
1	田口	FP	永井	0
1	橋本	FP		
4	長澤	FP		
31	(7)	PT	(0)	8

（審・岡本 清水）

栃の葉女子教員(栃木) 26 (14－7, 12－10) 17 鹿児島教員ク

〔戦評〕開始早々栃の葉が相川のロングシュートでリズムに乗り、10分には4—0で先行。鹿児島もその後サイド、ポストなどで加点、20分には8—6と追いすがる。しかし、栃の葉が再びロングなどで突き放し、14—7で前半を終了。

後半に入っても栃の葉のリズムは変わらず、鹿児島も終盤懸命の粘りは見せたもののふり切られた。

得	〔栃の葉〕		〔鹿児島〕	得
0	吉村	GK	永田	0
0	大久保	GK	松本	0
3	北井	FP	川口	3
2	五十畑	FP	市来	2
8	相川	FP	山崎	5
5	桜木	FP	古賀	2
5	中村	FP	倉田	3
3	中野	FP	神代	2
		FP	中村	0
26	(1)	PT	(6)	17

（審・阿部羅 浜野）

愛知教員女子ク 23 (14－5, 9－5) 10 山口教員

〔戦評〕サイドシュートの2連取で先手を取った愛知は、三宅のスピーディな速攻をからませ、15分には9—2と大きくリード。山口も小さなパスをつないで速攻をかけるが、愛知GK鏡の好守に阻まれ、14—5で前半を折り返す。

後半に入り、山口は攻撃的なディフェンスから速攻に行くがパスミスが多くてリズムをつかめず、流れを変えることができなかった。

得	〔愛知〕		〔山口〕	得
0	鏡	GK	柴田	0
0	鈴木	GK	飛垣	1
5	三宅	FP	松清	0
1	天野	FP	岡崎	1
0	細田	FP	藤木	1
0	寺田	FP	豊永	2
7	大久保	FP	栗林	2
3	富田	FP	山村	1
0	古河	FP	河村	1
3	浅野	FP	吉原	1
4	尾崎	FP		
23	(3)	PT	(1)	10

（審・岡本 清水）

2回戦

京都教員 38 (17－1, 21－4) 5 山形教員

〔戦評〕4連続速攻で先手をとった京都は、その後もロング、ポストと確実に加点し、精彩を欠く山形を終始圧倒、17—1と大差をつけて前半を終了。

後半に入っても京都の勢いは衰えず、速攻を中心にノート狭しと走り回り、大差をつけて勝利を収めた。

得	〔京都〕		〔山形〕	得
0	畑添	GK	渡部	0
0	山本	GK	小林	2
6	矢野	FP	村川	0
3	池上	FP	漆山	2
9	中尾	FP	飯野	0
3	藤田	FP	今野	1
3	渡辺	FP	黒澤	0
5	酒井	FP		
5	小橋	FP		
4	審	FP		
0	井上	FP		
38	(1)	PT	(0)	5

（審・井上 高橋）

神奈川教員 24 (12－5, 12－13) 18 長崎ク

〔戦評〕長崎は立ち上がり藤山、小路のポストシュートで先制、好調なスタートを切ったが、神奈川もすぐに岩渕の速攻、小池のポストシュートで同点とし、さらに10分過ぎ長崎が退場でペースを乱し

得	〔神奈川〕		〔長崎〕	得
0	加藤	GK	増田	0
0	中野	GK	石丸	0
2	野島	FP	谷川	2
5	小池	FP	小路	2
3	野見山	FP	石丸	0
3	大久保	FP	境	0
4	岩渕	FP	中田	6
2	安室	FP	塩津	5
1	高倉	FP	藤山	3
4	中村	FP	郡山	0
24	(0)	PT	(2)	18

（審・森山 高橋）

たところで速攻などで3点を連取優位に立った。
後半に入って、神奈川は速攻とポストから、長崎は中田、塩津の活躍で点の取り合いとなったが、神奈川が前半のリードを保って逃げ切った。

福岡教員 22 （10—6 7—11 4—3 1—2） 22 埼玉教員
3PTC2　　白小鳩

〔戦評〕試合開始から両チームとも素早い動きとボール回しでポストからのシュートで得点し、互角の立ち上がりを見せる。しかし、福岡のオフェンス、ディフェンスがやや上回り、4点差をつけて前半を終る。
後半に入り、福岡にシュートミスがあり徐々に埼玉ペースとなり残り5分に同点に追いつく。1点を争う試合展開となったが、17—17で延長戦に。
延長に入って福岡が2点をリード、このままかと思われたが、埼玉も懸命に粘って再び追いつき、勝敗はとうとうPTCに。結局福岡が3—2でPTCを制し、大熱戦に決着をつけた。

得	〔福岡〕		〔埼玉〕	得
0	上野	GK	根岸	0
3	今村	FP	田島	2
5	松田		七木田	0
3	藪田	（審・増田・中森）	石井	10
0	妹川		稲垣	3
0	田中		百瀬	3
5	田中		大日方	0
4	田口		田村	0
0	橋本		七木田	4
2	長澤		鈴木	0
22	(5)	PT	(2)	22

栃の葉女子教員 20 （12—10 8—9） 19 愛知教員女子ク

〔戦評〕両チームともスピード豊かな攻防を展開し、前半のなかばまではサイド攻撃や逆速攻などを確実に得点に結びつけた栃の葉が優位に展開。愛知もディフェンスを固めて追い上げ、2点差で前半を折り返す。
後半も技の栃の葉と力の愛知が一進一退の攻防を展開、残り3分で同点。その後1点の重圧に両チームともシュートが決まらず、延長戦かと思われたが、残り5秒、栃の葉・五十畑のシュートが決まり決着がついた。

得	〔栃の葉〕		〔愛知〕	得
0	吉村	GK	鏡	0
			鈴木	0
3	大久保	FP	三宅	12
2	北井		天野	1
2	五十畑	（審・高橋・森山）	細田	0
8	相川		寺田	0
3	桜木		大久保	0
2	中村		富田	0
0	中野		古河	0
			浅野	5
			尾崎	1
20	(3)	PT	(0)	19

準決勝

京都教員 36 （17—5 19—7） 12 神奈川教員

〔戦評〕前半、神奈川はカットインを中心に良く動いて攻めたが、ロングシュートがなく、京都の堅いディフェンスを崩すことができず、逆に無理なシュートやミスから京都の速攻を受け、前半で大きく点差をつけられた。
後半、神奈川は懸命の反撃を見せるが、攻め切れず、京都に走られて一方的な試合展開となった。

得	〔京都〕		〔神奈川〕	得
0	畑添	GK	加藤	0
0	山本		中野	0
2	矢野	FP	野嶋	0
3	池上		小池	4
8	中尾	（審・井上・高橋）	野見山	1
8	藤田		大久保	2
3	渡辺		岩渕	3
5	酒井		安室	1
3	小橋		高倉	1
3	審		中村	0
1	井上			
36	(0)	PT	(2)	12

福岡教員 24 （13—8 11—7） 15 栃の葉女子教員

〔戦評〕開始早々、栃の葉の大久保が左サイドからのシュートで得点、福岡もすぐに松田のロングで同点とし、一進一退の展開かと思われたが、スピードにやや上回る福岡が次第にリードを広げ、13—8で前半を折り返した。
後半は、双方ともに疲れからかミスが目立ち、思うほどの得点があげられず、結局23—15で福岡が勝利を収めた。

得	〔福岡〕		〔栃の葉〕	得
0	上野	GK	吉村	0
7	今村	FP	大久保	2
5	松田		北井	1
6	藪田	（審・増田・中森）	五十畑	2
0	妹川		相川	6
3	田中		桜木	1
0	田中		中村	0
0	田口		中野	3
0	橋本			
3	長澤			
24	(4)	PT	(1)	15

3位決定戦

神奈川教員 13 （9—3 4—8） 11 栃の葉女子教員

〔戦評〕両チームとも守って速攻を中心に攻撃する同タイプの対戦。開始1分、栃の葉・中野の速攻で先制。神奈川もすぐに小池のミドルで追いつき、以後一進一退の展開を見せたが、栃の葉が大事なところでパスミス、シュートミスを犯し、自滅の形で6点差がついて前半を終る。
後半は、両チームとも速いテンポで好ゲームを展開。栃の葉も必死の追い上げを見せたが、神奈川GK加藤の好守にあってあと一歩及ばなかった。

得	〔神奈川〕		〔栃の葉〕	得
0	加藤	GK	吉村	0
0	中野			
4	野島	FP	大久保	1
2	小池		北井	0
1	野見山	（審・中森・増田）	五十畑	0
1	大久保		相川	4
3	岩渕		桜木	2
1	安室		中村	1
0	高倉		中野	3
1	中村			
13	(1)	PT	(1)	11

決勝

京都教員 18 （9—9 9—8） 17 福岡教員

〔戦評〕立ち上がり両チームともに固さが見られ、京都はPTを3本はずすなどリズムに乗れなかった。10分過ぎ頃より両チームともようやくリズムをつかみ、見応えのあるゲームとなり、9—9の互角で前半を折り返した。
後半、京都は福岡・長澤の退場の間に2点を連取、リードを3点にまで広げた。しかし、福岡も終盤激しく追い上げ1点差としたが、一歩及ばなかった。
両チームGKの好守もあり、決勝戦らしい好ゲームであった。

得	〔京都〕		〔福岡〕	得
0	畑添	GK	上野	0
0	山本			
0	矢野	FP	今村	1
2	池上		松田	7
0	中尾	（審・阿部羅・浜野）	藪田	4
9	藤田		妹川	0
0	渡辺		田中	1
3	酒井		田中	2
2	小橋		田口	0
0	審		橋本	0
2	井上		長澤	2
18	(1)	PT	(6)	17

第9回全国クラブ選手権大会

男子はパームヒルクラブ 女子は小松クラブに栄冠

（8月4日～6日／大阪市中央体育館）

男子

▼予選リーグ

○Aグループ

はまなすク（北海道）21（11－5、10－12）17 ラージェスト（東京）

はまなすク 21（11－8、10－8）16 東山クA（京都）

東山クA 19（10－9、9－9）18 ラージェスト

（順位）①はまなすク②東山クA③ラージェスト

○Bグループ

氷見ク（富山）21（8－12、13－7）19 本田ク（三重）

氷見ク 27（15－4、12－9）13 高島ク（滋賀）

本田ク 24（14－5、10－9）14 高島ク

（順位）①氷見ク②本田ク③高島ク

○Cグループ

全福岡（福岡）17（8－9、9－8）17 日川ク（山梨）

全福岡 19（9－6、10－2）8 生駒ク（奈良）

日川ク 16（10－6、6－5）11 生駒ク

（順位）①全福岡②日川ク③生駒ク

○Dグループ

下関ク（山口）25（12－9、13－8）17 清商ク（静岡）

下関ク 17（7－6、10－7）13 白亜ク（岩手）

白亜ク 20（12－4、8－12）16 清商ク

（順位）①下関ク②白亜ク③清商ク

○Eグループ

桜門ク（東京）24（11－9、13－7）16 御坊ク（和歌山）

桜門ク 23（12－2、11－8）10 讃岐ク（香川）

御坊ク 15（5－7、10－6）13 讃岐ク

（順位）①桜門ク②御坊ク③讃岐ク

○Fグループ

小松ク（石川）22（13－6、9－7）13 富岡ク（群馬）

小松ク 21（10－5、11－8）13 呉ク（広島）

富岡ク 19（9－7、10－6）13 呉ク

（順位）①小松ク②富岡ク③呉ク

○Gグループ

花巻ク（岩手）23（9－8、14－6）14 IHク（神奈川）

IHク 25（12－8、13－9）17 雪陵ク（大阪）

雪陵ク 21（11－9、10－9）18 花巻ク

（順位）①花巻ク②IHク③雪陵ク

○Hグループ

パームヒルク（沖縄）23（12－5、11－11）16 大同ク（愛知）

パームヒルク 28（14－6、14－7）13 白桃ク（岡山）

大同ク 26（11－7、15－7）14 白桃ク

（順位）①パームヒルク②大同ク③白桃ク

▼決勝トーナメント1回戦

大同ク 20（12－9、8－4）13 はまなすク

氷見ク 28（16－8、12－11）19 IHク

全福岡 27（13－7、14－8）15 富岡ク

御坊ク 30（14－13、16－12）25 下関ク

桜門ク 38（18－12、20－6）18 白亜ク

小松ク 20（8－9、12－7）16 日川ク

本田ク 26（15－11、11－8）19 花巻ク

パームヒルク 38（15－14、23－8）22 東山ク

▼2回戦

大同ク 23（13－11、10－11）22 氷見ク

全福岡 32（14－8、18－7）15 御坊ク

桜門ク 26（12－8、14－7）15 小松ク

パームヒルク 29（12－12、17－11）23 本田ク

▼準決勝

全福岡 20（11－6、9－8）14 大同ク

パームヒルク 21（12－10、9－10）20 桜門ク

▼決勝

パームヒルク 20（9－9、11－10）19 全福岡

女子

▼予選リーグ

○イグループ

ギャロップレ・ク（岩手）12〔5－4／7－3〕7 ポストク（静岡）
ギャロップレ・ク 10〔5－3／5－3〕6 チェイサー（大阪）
チェイサー 11〔4－2／7－1〕3 ポストク
（順位）①ギャロップ・レディスク②チェイサー③ポストク

○ログループ

神埼ク（佐賀）13〔5－4／8－2〕6 古都ク（京都）
日川ク（山梨）13〔4－4／9－5〕9 神埼ク
古都ク 13〔8－3／5－5〕8 日川ク
（順位）①神埼ク②日川ク③古都ク

○ハグループ

香川ク（香川）14〔7－3／7－5〕8 風見鶏ク（兵庫）
香川ク 18〔9－5／9－5〕10 佼成OG（東京）
風見鶏ク 12〔9－3／3－6〕9 佼成OG
（順位）①香川ク②風見鶏ク③佼成OG

○ニグループ

あゆみク（三重）11〔5－4／6－3〕7 滋賀ク（滋賀）
あゆみク 12〔5－4／7－6〕10 徳山ク（山口）
徳山ク 15〔9－7／6－3〕10 滋賀ク
（順位）①ジャスコあゆみク②徳山ク③滋賀ク

○ホグループ

広島ク（広島）15〔9－8／6－5〕13 小松ク（石川）
広島ク 13〔6－1／7－5〕6 オレンジク（栃木）
小松ク 10〔6－3／4－3〕6 オレンジク
（順位）①広島ハンドボールク②小松ク③オレンジク

▼決勝トーナメント1回戦

小松ク 16〔11－6／5－7〕13 日川ク
チェイサー 14〔7－5／7－7〕12 風見鶏ク

▼2回戦

あゆみク 12〔8－3／4－8〕11 香川ク
徳山ク 22〔11－7／11－11〕18 神埼ク
小松ク 11〔6－5／5－4〕9 ギャロップレ・ク
広島ク 18〔10－4／8－6〕10 チェイサー

▼準決勝

小松ク 15〔9－4／6－5〕9 あゆみク
広島ク 22〔7－7／15－8〕15 徳山ク

▼決勝

小松ク 13〔7－7／6－4〕11 広島ク

大会を終えて

○参加選手年齢分布

〈男子〉

40以上	9	2・6％
35以上	21	6・2％
30以上	54	15・9％
参加者	340	／24・7％

〈女子〉

40以上	4	2・0％
35以上	10	5・0％
30以上	29	14・5％
25以上	50	25・0％
参加者	200	／46・5％

参加選手の年齢分布ですが、30歳以上の選手が24・7％～21・5％を締めています、35歳以上でも、8・8％～7・0％の選手が参加しています。

以上の事から、一日の試合数・試合時間を考えてみるか、年齢別の組み合わせ・大会を一考する必要があるのではないでしょうか。

特に女子のチームの子供連れの選手の休憩場所の確保が大事だと思います。ママさんチームの参加はハンドボール競技の将来に欠かせない大事な資源ではないでしょうか。小さな時から母親と一緒にボールに馴染むことは本当に大切なすばらしい環境ではないでしょうか。

今回の大会のギャロップ・レディスは、高年齢（34・4）でしたが、子供達の「ママがんばれ」の声援で予選2勝での通過はすばらしかったと思います。この子供達が母親そのグループを通じてハンドボールに目を向け興味を持ってくれる事ほどすばらしい事はないと思いますが。

クラブの大会も大切ですが、ママさんハンドボールの大会も考える時期が来ているのではないでしょうか。女子チームでは25歳以上が50％近くを締め既婚・子ずれの選手が多く、年1回の顔合わせを楽しみに参加のチームも多く見られました。

男子にしても年齢別の大会にすれば、オールドボーイを呼び戻すことができるのではないでしょうか。

その他として、会場の固定化。固定していると、毎年はだめとしても、旅費宿泊費を予算化して計画的に参加しやすくなります。

試合時間も男女別・年齢別に考慮し、試合方法も考えてみると大会は実施できます。

審判も上につながらない大会ですから、各チームの帯同審判（1名・監督・コーチ・マネージャー兼任可）でいいと思います。開催地は審判長と補充の審判員を数ペアーで準備すればよいのですから、大会運営も軽減することができると思います。大会参加費と協会交付金で運営するためにも必要だと思います。

高知インターハイを振り返って

浦和実業学園高校
監督　山田克彦



　年号も平成と替わり、その元年度、第40回記念すべき大会において昨年度女子の初優勝に引き続いて今年は男子が5年振り2度目の優勝を果たすことが出来ましたことはこの上ない喜びであります。

　今年は185㎝3人を揃えてこの初の大型チームとしてスタートを切った。夏場はウエイト・トレーニング中心に体力づくりとシュート力の向上のためにかなりの時間をかけてポジションシュートを練習させた。10月の新人戦地区予選では大型チームゆえに夏場のトレーニングの成果はまだ出ず、ディフェンス力不足、精神面の脆さもあって準々決勝、大宮南高校に15対15の引き分け、PTCを1対2で敗れ、第5位という不本意な成績となった。大会の反省を生かすために、フットワークと1対1を練習内容に多く取り入れた。また、精神面においては、監督に怒られても強く気持を持つことを約束させ、強化をはかった。11月、県新人戦が始まった。準々決勝、浦和学院と対戦、14対15で敗れて3位となったものの春の関東大会予選までにはどうにか勝負が出来る手応えを感じ取った。

　冬場は新人戦の反省を生かしとにかく体力向上、精神力向上をはかった。体力面ではウエイトトレーニング、ハードル走、階段の登り降り、12分間走などを練習に組み入れた。苦しいトレーニングを克服させることによって精神面の強化をはかると共に、ミーティングを多く持ち、話し合いの中で選手一人一人の心づくりに専念した。特にキャプテンの永山君には「チームワーク」とは、「キャプテンシー」とはなどと考えさせたり、アドバイスをしたりした時期でもあった。

　3月、春の全国選抜大会に初出場した浦和学院高校が昨年のインターハイに引き続いてベスト4進出を果たし、本校も全国の上位を狙えるレベルにあることを確信して愛知県立名南工業高校においてこの強化合宿に参加させて戴いた。ここでは、熊本市商高校、高岡向陵高校、小松明峰高校など毎年インターハイに出場するチームと練習をさせて戴き、選手たちはかなりの自信を持って帰って来た。すぐ翌日、千葉県東邦高校においてこの強化合宿に参加させて戴いた。名古屋遠征の疲れもあって少々動きは鈍いがディフェンスが少しずつ良くなって来た。もう少し前への詰めと2人、3人のコンビネーションディフェンスが確実になれば、関東大会県予選は優勝が狙えると思った。

　5月、関東大会県予選が始まった。今大会は準決勝リーグにおいて大宮南高校と対戦、昨年11月の新人戦地区予選では引き分け、PTCで負けているので気合いを入れて臨んだ。前半5分、キャプテンの永山君が左親指脱臼のために退場、交替して出場した185㎝の田中君がよくロングシュートを決めてくれて17対15で勝ち決勝へ進んだ。決勝では浦和学院高校と対戦、昨年新人戦では1点差で負けを喫したが、前回の反省を生かし、相手の攻撃を高さで守り切り、速攻で得点を重ねて20対12で圧勝。関東大会出場を決定づけた。

　6月、栃木県で行われた関東大会では準決勝で横浜商工高校と対戦、手渡しパスからのずらしと左腕エース小沢君のロングシュートが守り切れず16対24と大敗を喫した。この日から「打倒・横商」を目標にインターハイ出場を目指した。

　6月、インターハイ県予選が始まった。準決勝リーグを難無く勝ち上がり、決勝リーグを迎えた。決勝リーグでは、「心で負けるな」、「打倒横商」を目標として頑張ることを再認識させた。初戦、川口北高校と対戦、16対9で勝つ。ここで浦和学院高校が大宮南高校に18対20で敗れる波乱が生じた。2戦目、その浦和学院高校と対戦したが、前日大宮南高校に負けて気合いが入ったか、闘志をむき出しに気迫ある戦い振りで12対17と完敗した。とうとう優勝チームは最終戦の対大宮南高校戦にもつれ込んだ。最有力候補は大宮南高校でてばインターハイ初出場。8点差以内で浦和実業学園高校が勝つと浦和学院高校の3度目の出場が決定する。浦和実業学園高校は9点差以上の差をつけなければインターハイの出場決定はならず、ほぼ不可能に近い戦いとなった。いよいよ事実上の決勝戦が始まろうとした時、サイドプレーヤーの笹井君が私の所に来て、「左腕エースの本間君にマンツーマンをつきたい」と願い出て来た。私はこの時ばかりは彼はインターハイ出場を締めていないのだ、自分が負けを心に決めていたことがとても恥かしかった。また、OB、御父兄の皆様方も選手たちに叱咤激励してくれたことも大いに感謝すべき所であった。選手たちは本当に良く頑張ってくれた。前半、笹井君がマンツーマンを守り切り10対6で終了。後半は相手のシュートミス、GK加藤君（2年生）の好守もあって速攻、そして何よりも残り10分、キャプテン永山君のミドルシュートが4連続決まって試合を決定づけた。結局9点差どころか12点差をつけて22対10で快勝。4年振り4度目のインターハイ出場を果たした。

　インターハイまで約1ヶ月。この時期にしっかりと調整して臨まなければな勝てない。そう考えて、4つの段階に分けて練習計画を立

てた。まず第1段階は体力トレーニング。暑さ対策も考えて、ジャジャスエットパンツなど厚着で練習に参加させた。また、フットワークやウエイト・トレーニングを再度強化させた。第2段階はディフェンス力の強化。1・5と0・6のディフェンスの併用と組織ディフェンスを徹底させた。第3段階はシュート、パス技術の完全修得をはかった。シュートのフォームとコースの徹底、パスのテクニックなどを自分自身が実際にやって見せ、かなりの時間をかけて復習させた。そして第4段階は何と言っても精神面の強化。「心づくり」である。インターハイ3度出場して3度ともベスト4以上。これからまず意識をさせた。また、チームワークの大切さ、特にキャプテンを中心にまとまることを確信させた。

さて、インターハイ県予選後1週間、レギュラーメンバーの変更が生じた。185㎝の田中君が腰痛のために練習を見学、その間に2年生の二川君がレギュラー入りを果たした。この起用はキャプテン永山君の思い切りの判断の良さの結果で、私も相談に来た時は思わず感心してしまった。実は3年生にもう一人185㎝の浅利君（3年生）がいたからである。思い切っての二川君の起用は大いに当たり、今まで以上のスピードと攻撃の幅が出来た。

7月22日、戸田スポーツセンターにおいてサマーカップ埼玉大会の前座試合に関東大会県予選と埼玉県国体選抜チームとの壮行試合が埼玉県ハンドボール協会の御協力によって実施された。インターハイへ臨む最後の練習試合と思って、今まで4段階に分けて練習した成果を見るのに調度良い機会となった。試合は20対17で勝ったもののまだポストへのパスカット、ロングシュートへの詰めの甘さが目立った。しかし勝った事によって安心感と多少の自信となった気がした。いよいよ8月2日、インターハイ出発の日がやって来た。負傷者も出ず、とりあえず万全を期して臨めることとなった。

8月4日、開会式に参加。横浜商工高校、明星高校の選手たちには自信たっぷりの余裕を感じさせられた。8月5日、春の全国選抜大会ベスト4だった浦和学院高校の実績によってシードとなり、2回戦に当たることとなった沖縄県コザ高校と広島県修道高校の試合を観戦することとなった。この試合はコザ高校の勝利となり明日対戦することとなった。ミーティングではサイド速攻のつぶし、センターの変則シュート、ロングシュートの詰めを指示した。

8月6日、対コザ戦は前日のミーティングでの指示を守り、九州大会No 1であるコザ高校に24対17で勝ち初戦を飾ることが出来た。

8月7日、3回戦、滋賀県長浜北高校と対戦することとなった。このチームとは春の名古屋遠征にて対戦し、1点差で負けたが選手たちは自信がある様子に見えた。前半こそノーマークシュートのはずしが多く8対6であったが、後半は13対2結局21対8で楽勝した。

8月8日、準々決勝は奈良県正強高校と対戦することとなった。相手のチームは手渡しパスをセンターのカットインプレーを主とした攻めであり、準決勝で横浜商工高校と当たる前の良い練習だと考えて試合をするように指示した。あくまでも「打倒横商」が目標だ、と短いミーティングで終わりにした。結果、手渡しパスは守り切りはするものの、センターのカットインプレーが守れず、前半10対9と苦戦をした。後半は再三ノーマークシュートをはずした佐藤君と交替させて新井君を起用したところ、2点サイドより連取してくれてムードを盛り上げてくれた。結果23対18で辛勝した。いよいよ目標である「打倒横商」の日が……と思っていたら、横浜商工高校は愛知県岡崎城西高校に2点差で負けるという大波乱が生じた。結果を聞いて喜んで良いのやら安心して良いのやら、とても複雑な心境となった。しかし、岡崎城西高校は大型チームであり、パワーのある左右のフローターを揃えており、油断をせぬ様指示をした。選手たちは横浜商工高校が敗れたためにやりやすい雰囲気と持った。

8月9日、準決勝は立ち上がり相手のロングシュートで先取点を取られるもののディフェンス、GKの好守で守り切り、速攻、ミドルシュートなどが良く決まり、前半14対3と意外と大差が開き、楽な試合展開となった。後半も同じような展開となり、控え選手を起用してレギュラーメンバーは明日の決勝に備えて休養させた。結果26対15と予想外の点差で決勝進出を果たした。

8月10日、女子の決勝戦が縺れに縺れて第2延長となり落ち着かぬ状態で決勝戦を迎えた。相手はもちろん優勝候補の筆頭・春夏2連覇を狙う東京都明星高校。前日の熊本市商高校との対戦を見る限りでは全く勝ち目は無かった。前半は互角に戦えて9対8と1点リード。後半相手のシュートミスやGK加藤君の好守によって速攻が決まり、残り10分頃には18対10と大きく点差が開いた。しかし流石に春の全国選抜大会優勝チーム、退場者を出したスキに6点連取され18対16と2点差まで追い上げられた。しかし、残り2分、キャプテンの永山君がミドルシュートを決めて19対16試合を決定づけてくれた。結局19対17、2点差で5年振り2度目の優勝を果たすことが出来た。

今大会を振り返ってみると、まず埼玉県のレベルがとても高く、県内大会を勝つことの方が全国で勝つことより難かしく、勝てば大きな自信となる。次に審判技術の向上の伴いディフェンス力が一層強化されて来たこと。そして何よりも選手一人一人の心を個人ノートやミーティングなどによって摑み取ることが出来たことにある。一戦一戦ごとにまとまり強くなった。気負わず楽しく試合に参加出来たからであろうか？　今は選手一人一人に深く感謝している。

最後に埼玉県の役員の皆様方、学校関係各位の皆様方、並びに御父兄の皆様方誠に御支援、御協力ありがとうございました。また、高知県ハンドボール協会の酒井先生をはじめ多くの皆様方には大変御世話になりました。誠にありがとうございました。

第2回全国小学生大会

（8月1～3日／京都府田辺町）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

中央北小（熊本）14（9－1，5－5）6 三重選抜（三重）
中央北小 11（6－2，5－2）4 八幡市選抜B（京都）
中央北小 13（7－3，6－5）8 守谷ク（茨城）
中央北小 15（7－5，8－2）7 田辺選抜（京都）
守谷ク 12（7－3，5－5）8 三重選抜
守谷ク 11（6－2，5－4）6 八幡市選抜B
守谷ク 10（4－3，6－3）6 田辺選抜
田辺選抜 21（12－3，9－3）6 三重選抜
田辺選抜 12（3－2，9－4）6 八幡市選抜B
八幡市選抜B 12（5－1，7－3）4 三重選抜

〔順位〕①中央北小②守谷クラブ③田辺選抜④八幡市選抜B⑤三重選抜

○Bブロック

宮城小（沖縄）21（10－0，11－0）0 沼津少年団（静岡）
宮城小 15（9－1，6－1）2 和歌山市教室（和歌山）
宮城小 17（9－1，8－0）1 田辺東小（京都）
宮城小 21（13－1，8－1）2 徳島スクール（徳島）
田辺東小 22（12－4，10－1）5 沼津市少年団
田辺東小 18（10－4，8－3）7 和歌山市教室
田辺東小 24（14－0，10－1）1 徳島スクール
和歌山市教室 12（6－2，6－3）5 沼津市少年団
和歌山市教室 16（8－3，8－4）7 徳島スクール
徳島スクール 15（4－2，11－5）7 沼津市少年団

〔順位〕①宮城小②田辺東小③和歌山市ハンドボール教室④徳島ハンドボールスクール⑤沼津市ハンドボール少年団

○Cブロック

大宮北小（栃木）19（14－1，5－1）2 愛知県教室（愛知）
大宮北小 15（9－1，6－4）5 貝塚バーディーズ（大阪）
大宮北小 22（14－1，8－3）4 八幡市選抜A（京都）
貝塚バーディーズ 15（7－1，8－5）6 愛知県教室
貝塚バーディーズ 21（9－2，12－3）5 八幡市選抜A
愛知県教室 11（5－2，6－0）2 八幡市選抜A

〔順位〕①大宮北小②貝塚バーディーズ③愛知県ハンドボール教室④八幡市選抜A

○Dブロック

上庄児童ク（富山）16（4－1，12－7）8 草内小（京都）
上庄児童ク 14（7－1，7－3）4 瀬戸ジュニア（岡山）
上庄児童ク 13（8－3，5－4）7 真弓ク（奈良）
草内小 23（9－1，14－1）2 瀬戸ジュニア
草内小 13（5－4，8－7）11 真弓ク
真弓ク 15（6－2，9－2）4 瀬戸ジュニア

〔順位〕①上庄児童クラブ②草内小③真弓クラブ④瀬戸ジュニアオールスターズ

▼決勝トーナメント1回戦

中央北小 10（4－4，4－4，1－0，1－0）8 草内小
宮城小 15（5－1，10－1）2 貝塚バーディーズ
大宮北小 12（3－8，9－3）11 田辺東小
上庄児童ク 8（4－5，4－2）7 守谷ク

▼準決勝

宮城小 8（3－4，5－2）6 中央北小
上庄児童ク 10（5－4，5－3）7 大宮北小

▼3位決定戦

中央北小 17（8－2，9－4）6 大宮北小

▼決勝

宮城小 12（3－2，9－5）7 上庄児童ク

〈女子〉

▼予選リーグ

○aブロック

明野西ク（大分）14（6－1，8－1）2 真弓ク（奈良）
明野西ク 18（8－2，10－3）5 大宮北小（栃木）
真弓ク 12（10－3，2－4）7 大宮北小

〔順位〕①明野西ハンドボールクラブ②真弓クラブ③大宮北小

○bブロック

沢岻小（沖縄）20（10－2，10－1）3 三重選抜（三重）
沢岻小 19（10－1，9－1）2 田辺小（京都）
田辺小 14（7－4，7－0）4 三重選抜

〔順位〕①沢岻小②田辺小③三重選抜

○cブロック

守谷ク（茨城）14（8－1，6－3）4 田辺選抜（京都）
守谷ク 12－0 愛知県教室
田辺選抜 12－0 愛知県教室

〔順位〕①守谷クラブ②田辺選抜③愛知県ハンドボール教室

○dブロック

網津小（熊本）16（8－2，8－5）7 仏生寺少年団（富山）
網津小 24（16－0，8－6）6 八幡選抜（愛知）
仏生寺少年団 17（8－1，9－1）2 八幡選抜

〔順位〕①網津ハンドボール部②仏生寺スポーツ少年団③八幡市選抜

▼決勝トーナメント1回戦

明野西小 17（9－2，8－4）6 仏生寺スポ小
沢岻小 25（10－3，15－4）7 田辺選抜
守谷ク 12（5－1，7－3）4 田辺小
網津小 21（10－2，11－3）5 真弓ク

▼準決勝

明野西小 10（6－5，4－4）9 沢岻小
網津小 8（2－2，6－1）3 守谷ク

▼3位決定戦

沢岻小 15（7－2，8－3）5 守谷ク

▼決勝

明野西小 13（4－7，6－3，2－0，1－1）11 網津小

第11回東日本学生選手権

（8月23～27日／横浜文化体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

早稲田大 31－7 小樽商科大
拓殖大 23－14 富山大
富山大 26－13 小樽商科大
早稲田大 26－12 拓殖大
拓殖大 17－12 小樽商科大
早稲田大 31－13 富山大
〔順位〕①早稲田大②拓殖大③富山大④小樽商科大

○Bブロック

筑波大 33－16 新潟大
東北学院大 17－16 東京経済大
筑波大 27－12 東京経済大
東北学院大 25－24 新潟大
東京経済大 21－17 新潟大
筑波大 31－12 東北学院大
〔順位〕①筑波大②東北学院大③東京経済大④新潟大

○Cブロック

国士館大 30－9 金沢大
順天堂大 35－10 仙台大
国士館大 28－12 仙台大
順天堂大 27－10 金沢大
仙台大 18－18 金沢大
国士館大 22－12 順天堂大
〔順位〕①国士館大②順天堂大③仙台大④金沢大

○Dブロック

日体大 31－7 東北大
北海道大 30－11 防衛大
日体大 34－9 防衛大
北海道大 17－13 東北大
東北大 24－18 防衛大
日体大 37－13 北海道大
〔順位〕①日体大②北海道大③東北大④防衛大

○Eブロック

日本大 37－17 北海学園大
法政大 34－16 山形大
日本大 26－7 山形大
法政大 35－12 北海学園大
山形大 24－23 北海学園大
日本大 24－18 法政大
〔順位〕①日本大②法政大③山形大④北海学園大

○Fブロック

函館大 27－15 岩手大
東海大 35－14 一橋大
函館大 31－9 一橋大
東海大 22－10 岩手大
岩手大 29－12 一橋大
東海大 16－11 函館大
〔順位〕①東海大②函館大③岩手大④一橋大

○Gブロック

東北福祉大 28－11 福井大
慶応大 17－16 明治大
明治大 21－18 東北福祉大
慶応大 24－13 福井大
明治大 27－10 福井大
慶応大 26－11 東北福祉大
〔順位〕①慶応大②明治大③東北福祉大④福井大

○Hブロック

金沢工大 29－23 福島大
中央大 22－17 玉川大
金沢工大 22－18 玉川大
中央大 31－13 福島大
福島大 25－24 玉川大
中央大 33－14 金沢工大
〔順位〕①中央大②金沢工大③福島大④玉川大

▼決勝トーナメント1回戦

日本大 27（18－5、9－12）17 中央大
筑波大 25（10－9、15－12）21 国士館大
早稲田大 32（12－10、20－8）18 東海大
日体大 30（15－7、15－8）15 慶応大

▼準決勝

筑波大 18（9－9、9－8）17 日本大
日体大 21（12－8、9－11）19 早稲田大

▼3位決定戦

早稲田大 23（12－9、11－6）15 日本大

▼決勝

日体大 24（12－9、12－10）19 筑波大

〈女子〉

▼予選リーグ

○aブロック

東女体大 51－4 山形大
山形大 13－12 金沢大
東女体大 39－5 金沢大
〔順位〕①東京女子体育大②山形大③金沢大

○bブロック

日体大 25－9 東海大
東海大 28－9 富山大
日体大 40－4 富山大
〔順位〕①日体大②東海大③富山大

○cブロック

筑波大 27－10 東京学芸大
東北福祉大 14－14 東京学芸大
筑波大 21－11 東北福祉大
〔順位〕①筑波大②東北福祉大③東京学芸大

○dブロック

日女体大 32－4 茨城大
明徳短大 11－11 茨城大
日女短大 22－13 明徳短大
〔順位〕①日本女子体育大②千葉明徳短大③茨城大

▼決勝トーナメント1回戦

東女体大 30（15－9、15－6）15 日女体大
日体大 16（7－9、9－6）15 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 12（6－3、6－8）11 日女体大

▼決勝

東女体大 23（13－4、10－9）13 日体大

各地の記録から・・

東北

第42回青森県高校総体
（6月3日～5日／野辺地町）

〈男子〉

▼1回戦
青森商 38－13 七戸
青森南 24－17 鰺ケ沢
横浜分校 15－12 三本木
青森東 30－7 弘前南
青森 38－9 野辺地工
青森山田 20－8 五所川原
今別 20－8 柏木農
野辺地 30－13 十和田工

▼2回戦
青森商 31－11 青森南
青森東 26－17 横浜分校
青森 25－15 青森山田
野辺地 24－13 今別

▼準決勝
青森商 26－11 青森東
野辺地 18－13 青森

▼決勝
青森商 18（8－5、10－5）10 野辺地

〈女子〉

▼1回戦
青森商 19－5 青森東

▼2回戦
青森西 28－5 青森商
野辺地 10－10 今別（3PTC1）
三本木 26－9 七戸
青森中央 37－1 野辺地工

▼準決勝
青森西 22－14 野辺地
青森中央 29－10 三本木

▼決勝
青森中央 14（7－8、7－5）13 青森西

第40回秋田県民体育大会
（7月7日～9日／大曲仙北広域圏民体育館）

〈少年男子〉

▼1回戦
大曲農 21－11 秋田高専
湯沢稲川 19－17 大曲
羽後 40－13 横手

▼準決勝
湯沢 30－12 大曲農
羽後 31－20 湯沢稲川

▼決勝
湯沢 20（11－8、9－10）18 羽後

〈少年女子〉

▼1回戦
湯沢 16－15 湯沢稲川
羽後 12－11 横手東

▼準決勝
大曲農 37－8 湯沢
和洋女 27－14 羽後

▼決勝
大曲農 34（16－8、18－5）13 和洋女

〈成年男子一部〉

▼決勝
少男選抜 32（19－10、13－15）25 湯沢ク

〈成年男子二部〉

▼1回戦
大農ク 27－19 稲川ク
大曲ク 24－22 平和自ク
羽後ク 32－18 秋田ク

▼準決勝
マツダク 31－18 大農ク
羽後ク 22－11 大曲ク

▼決勝
マツダク 30（9－7、12－14、5－0、4－3）24 羽後ク

〈成年女子〉

▼リーグ戦
大農OGク 35－12 横手東OG
全和洋 27－12 横手東OG
大農OGク 22－20 全和洋

国体青森県予選（成年の部）
（7月8、9日／野辺地町）

〈成年男子1部〉

▼1回戦
青森クラブ 35－24 海自大湊
七戸ユニオン 31－19 NHC

▼準決勝
青森クラブ 43－24 自衛隊青森
青森マスターズ 31－18 七戸ユニオン

▼決勝
青森マスターズ 34（19－13、15－13）26 青森クラブ

〈成年男子2部〉

▼リーグ戦
野辺地クラブ 34－24 海自第2空群
青商クラブ 29－28 野辺地クラブ
青商クラブ 44－29 海自第2空群

【順位】①青商クラブ②野辺地クラブ③海自第2空群

〈成年女子〉

▼リーグ戦
あすなろクラブ 28－13 七戸クラブ
あすなろクラブ 27－14 野辺地クラブ
野辺地クラブ 18－8 七戸クラブ

【順位】①あすなろクラブ②野辺地クラブ③七戸クラブ

国体青森県予選（少年の部）
（7月15、16日／青森山田高）

〈少年男子〉

▼1回戦
三本木 20－12 柏木農
青森南 21－9 十和田工
今別 23－17 青森山田
野辺地工 14－4 七戸

▼2回戦
青森商 37－6 三本木
青森 19－11 青森南
今別 30－22 青森東
野辺地 32－5 野辺地工

▼準決勝
青森商 27－15 青森
野辺地 29－19 今別

▼決勝
青森商 30（16－8、14－8）16 野辺地

〈女子〉

▼1回戦
野辺地工 7－6 青森東
野辺地 26－4 七戸
青森西 21－12 今別

▼準決勝
青森中央 31－5 野辺地工
青森西 12－5 野辺地

▼決勝
青森中央 20（7－7、8－8、2－2、3－1）18 青森西

関東

埼玉県高校学徒大会
（6月16日～25日／伊奈学園総合高校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
浦和西 27－17 朝霞
所沢北 23－16 大井
三郷工技 29－7 越谷西
富士見 39－9 八潮南
城西川越 16－13 川越南
春日部東 25－19 城北埼玉
和光 19－5 桶川
川口東 27－10 大宮北
東農大三 31－15 狭山
志木 21－16 北本
所沢緑ケ丘 15－10 鳩ケ谷
上尾南 27－5 上尾沼南

川口 16―13 浦和工
春日部工 22―9 三郷北
春日部共栄 20―7 春日部
朝霞西 27―18 庄和
小松原 28―8 宮代
草加 30―12 久喜工
久喜北陽 17―15 草加東
羽生一 17―15 秩父
県坂戸 22―8 戸田
大宮 46―3 八潮
浦和南 16―12 筑波坂戸
越谷南 21―10 幸手
川口工 23―20 科学技術

▼2回戦

浦和西 18―15 上尾東
所沢北 20―19 三郷工技
城西川越 26―22 富士見
春日部東 11―10 埼玉第一
川口東 20―7 和光
東農大三 33―11 志木
所沢緑ケ丘 14―14 上尾南
2PTC0
川口 14―11 岩槻
春日部工 29―17 秩父農工
春日部共栄 17―8 朝霞西
小松原 10―6 熊谷
久喜北陽 14―14 草加
4PTC3
羽生一 29―5 吹上
県坂戸 28―12 大宮
浦和南 20―12 越谷南
埼玉栄 17―9 川口工

▼3回戦

浦和西 19―14 所沢北
春日部東 19―13 城西川越
川口東 19―11 東農大三
川口 20―18 所沢緑ケ丘
春日部共栄 14―9 春日部工
小松原 19―15 久喜北陽
県坂戸 32―22 羽生一
埼玉栄 23―18 浦和南

▼4回戦

浦和実 25―11 浦和西
川口青陵 20―19 春日部東
川口北 22―16 川口東
西武台 28―14 川口
大宮南 24―12 春日部共栄
伊奈学園 25―12 小松原
県坂戸 13―10 浦和市立
浦和学院 22―12 埼玉栄

▼5回戦

浦和実 38―14 川口青陵
川口北 19―16 西武台
大宮南 17―10 伊奈学園
浦和学院 29―9 県坂戸

▼決勝リーグ

浦和実 22―10 大宮南
浦和実 16―9 川口北
浦和学院 17―12 浦和実
浦和学院 23―13 川口北
大宮南 20―18 浦和学院
大宮南 17―12 川口北

（順位）①浦和実②浦和学院③大宮南④川口北

〈女子〉

▼1回戦

浦和南 29―4 朝霞
庄和 27―11 志木
春日部東 34―12 大宮・北
狭山 22―11 秩父
熊谷女 50―3 山村第二女

▼2回戦

浦和学院 33―2 草加南
越谷南 21―5 上尾南
筑波坂戸 19―2 和光
浦和南 16―7 八潮南
三郷北 18―13 庄和
小松原女 16―5 東農大三
行田女 24―17 草加
春日部共栄 18―11 春日部東
浦和市立 11―9 大宮南
本庄女 18―16 幸手商
草加東 13―4 所沢北
宮代 26―10 狭山
熊谷女 37―2 深谷一
春日部女 26―2 戸田
浦和商 20―10 鳩ケ谷
秋草学園 23―8 北本

▼3回戦

越谷南 13―10 浦和学院
浦和南 17―9 筑波坂戸
小松原女 10―8 三郷北
行田女 17―8 春日部共栄
浦和市立 16―8 草加東
宮代 25―12 本庄女
春日部女 14―10 熊谷女
秋草学園 17―9 浦和商

▼4回戦

浦和実 30―3 越谷南
浦和南 14―6 羽生一
小松原女 13―9 川口女
上尾東 21―13 行田女
川口北 29―7 浦和市立
八潮 25―5 宮代
春日部女 14―13 伊奈学園
川口青陵 41―6 秋草学園

▼5回戦

浦和実 20―11 浦和南
上尾東 19―7 小松原女
川口北 16―12 八潮
川口青陵 31―7 春日部女

▼決勝リーグ

川口北 17―15 浦和実
川口北 12―9 川口青陵
川口北 12―7 上尾東
浦和実 16―16 川口青陵
浦和実 18―14 上尾東
川口青陵 20―14 上尾東

（順位）①川口北②浦和実③川口青陵④上尾東

北信越

第25回北信越高校

（6月16～18日／氷見市総合体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

氷見（富山） 26―5 柏崎（新潟）
金沢市工（石川） 29―16 金津（福井）
新潟江南（新潟） 13―11 上田（長野）
屋代（長野） 29―21 高田商（富山）
北陸（福井） 26―11 小松（石川）
高岡（富山） 30―13 長岡大手（新潟）
高岡向陵（富山） 36―10 坂城（長野）
小松明峰（石川） 25―11 高志（福井）

▼2回戦

氷見 19―15 金沢市工
新潟江南 20―19 屋代
高岡 16―15 北陸
小松明峰 24―17 高岡向陵

▼準決勝

氷見 16―9 新潟江南
小松明峰 22―15 高岡

▼決勝

小松明峰 23 {14―2, 9―10} 12 氷見

〈女子〉

▼1回戦

小松商（石川） 35―6 塩尻（長野）
羽水（福井） 14―12 有磯（富山）
高岡商（富山） 18―17 佐久（長野）
新潟江南（新潟） 21―8 金沢商（石川）
小杉（富山） 40―6 長岡大手（新潟）
小松市女（石川） 30―7 仁愛女（福井）
屋代（長野） 26―11 巻（新潟）
福井商（福井） 31―9 富山女（富山）

▼2回戦

小松商 28―5 羽水
新潟江南 21―8 高岡商
小松市女 22―13 小杉
福井商 13―9 屋代

▼準決勝

小松商 24－7 新潟江南
福井商 14－13 小松市女
▼決勝
小松商12（6－4, 6－3）7福井商

東海

静岡県高校総体

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
小山 16－9 国際海洋
清水東 17－13 気賀
沼津東 21－14 浜松城北工
静岡東 不明 浜松南
▼2回戦
清水市商 25－3 小山
富士 12－0 沼津工
星陵 20－10 御殿場南
清水東 20－13 浜松湖東
伊豆中央 18－6 浜松城北工
静岡農 27－11 長泉
二俣 13－12 静岡西
静岡南 14－13 静岡東
▼3回戦
清水市商 28－11 富士
星陵 18－16 清水東
静岡農 21－17 伊豆中央
静岡南 15－10 二俣
▼決勝リーグ
清水市商 20－16 星陵
静岡南 21－17 静岡農
静岡南 21－16 星陵
清水市商 15－10 静岡農
星陵 15－14 静岡農
清水市商 25－14 静岡南
〔順位〕①清水市商②静岡南③星陵④静岡農

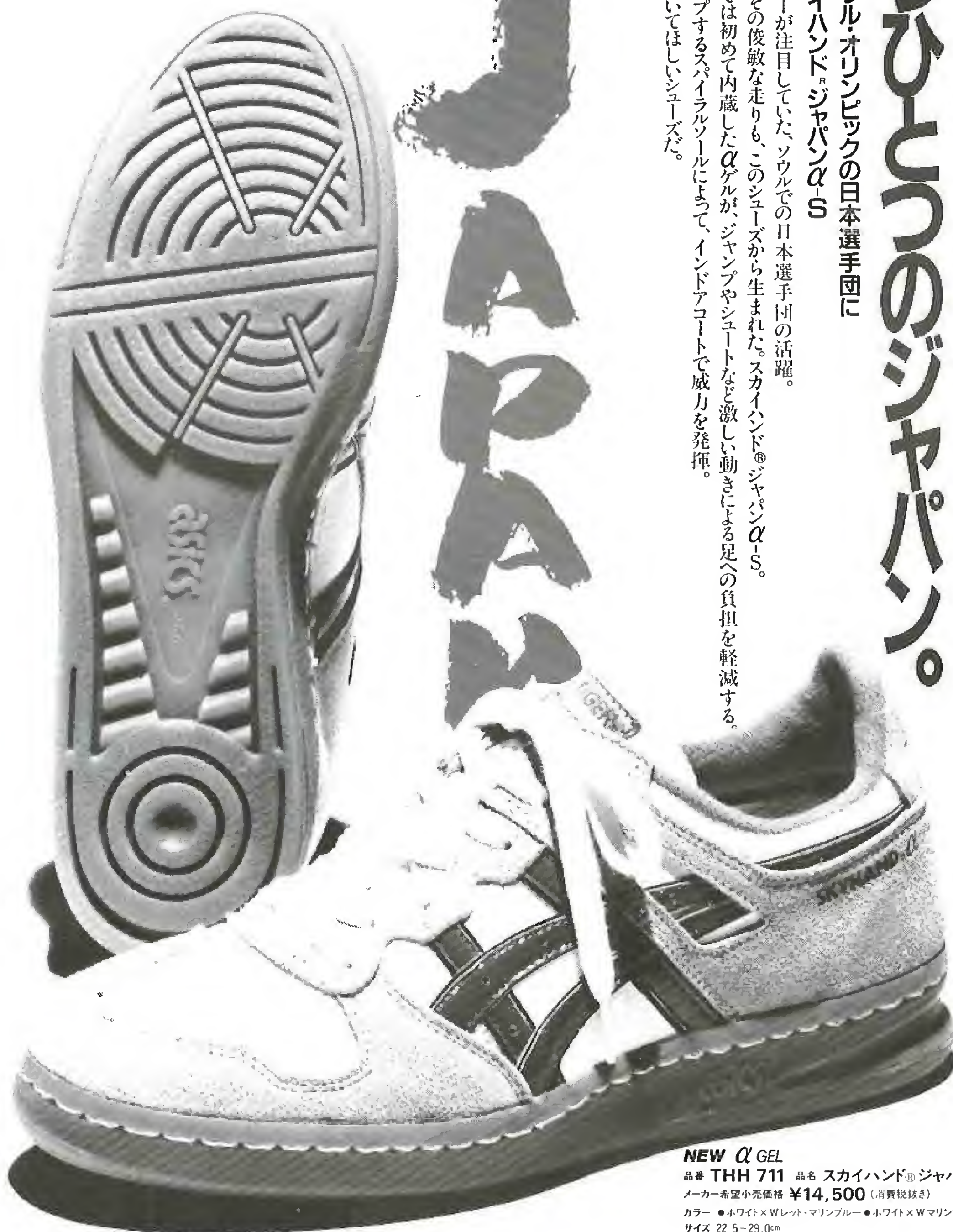
〈女子〉

▼1回戦
静岡城北 38－1 富士東
静岡農 14－4 富士宮東
土肥 13－12 二俣
小山 17－10 清水女
気賀 10－7 御殿場
清水西 18－2 吉原
富士見 9－6 藤枝西
清水市商 25－6 加藤学園
▼2回戦
静岡城北 15－10 静岡農
小山 29－13 土肥
清水西 18－11 気賀
清水商 28－6 富士見
▼決勝リーグ
静岡城北 19－8 小山
清水市商 18－10 清水西
静岡城北 20－8 清水西
清水市商 25－17 小山
清水西 17－13 小山
静岡城北 12－11 清水市商
〔順位〕①静岡城北②清水市商③清水西④小山

ソウルで活躍した、もうひとつのジャパン。

これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に採用されたスカイハンドⓇジャパンα-S

すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンドⓇジャパンα-S。ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。



NEW α GEL

品番 **THH 711** 品名 スカイハンドⓇジャパンα-S

メーカー希望小売価格 **¥14,500**（消費税抜き）

カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド

サイズ 22 5～29.0cm

asics® TIGER®

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ

〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL（078）303-2233（専用）・（078）303-3333（大代表）

〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL（03）624-1814（専用）・（03）624-2221（大代表）

● Rは㈱アシックスの登録商標です

株式会社アシックス

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二九一号
昭和四十年六月 第三種郵便物認可
平成一年九月二十六日 印刷
平成一年十月一日 発行
東京都渋谷区 一－一－一
電話 代表 一三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）